

第二十八回 帝國議會 貴族院議事速記録第九號

明治四十五年三月十二日(火曜日)

午前十時三分開議

議事日程 第九號 明治四十五年三月十二日

午前十時開議

- 第一 鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 陸軍作業會計法中改正法律案(議院送付、衆) 第一讀會
- 第三 產牛馬組合法改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第四 水道條例中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第五 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第六 水利組合法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第七 群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第八 海外貿易振興ニ關スル建議案(前田正名君發議) 會 議

○副議長(侯爵黑田長成君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

去ル九日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ採擇スヘキモノト議決シタル岩木川改修工事速成ノ請願外三十一件ノ請願ハ各意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

陸軍作業會計法中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

貴族院議事速記録第九號 明治四十五年三月十二日

議長ノ報告 鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案 第一讀會

水利組合法中改正法律案

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案特別委員會

委員長 男爵眞田 幸世君 副委員長 子爵土御門 晴榮君

水先法中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵吉井 幸藏君 副委員長 子爵本多 忠錄君

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案否決報告書

昨十一日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵三島 彌太郎君 副委員長 男爵有地 品之允君

○副議長(侯爵黑田長成君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、第一、鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治四十五年三月九日

内閣總理大臣侯爵西園寺 公望

逓信大臣伯爵林 董

司法大臣 松田 正久

外務大臣子爵内田 康哉

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案

律案

第一條 鐵道又ハ船舶カ主務大臣ノ認可ヲ得タル契約ニ依リ露國ノ鐵道又ハ船舶ト物品ノ聯絡運送ヲ爲ス場合ニ於テハ本法ニ依ル

第二條 鐵道營業法第五條乃至第九條ノ規定ハ船舶ニ之ヲ準用ス但シ運送

品ノ發送ハ運送中込ノ順序ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第三條 運送契約ハ鐵道又ハ船舶カ運送ヲ爲スコトヲ約シ荷送人ヨリ運送品及運送狀ヲ受取ルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

鐵道又ハ船舶カ運送契約ヲ爲シタルトキハ荷送人ニ運送狀ノ副狀ヲ交付スヘシ

運送狀及運送狀ノ副狀ニ記載スヘキ事項及其ノ記載ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 運送狀ハ貨物引換證及船荷證等ニ關スル商法ノ規定ハ之ヲ適用セス

第五條 鐵道又ハ船舶ノ使用人ハ運送狀ノ作成ニ付テハ荷送人ノ代理人ト爲ルコトヲ得

第六條 特定ノ者ニ對シ運送貨ノ割引ヲ爲ス特約ハ之ヲ無効トス但シ總テ

ノ鐵道及船舶ノ合意ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 運送品及運送狀ヲ受取リタルトキハ荷受人ハ運送狀ニ記載シタル金額ヲ鐵道又ハ船舶ニ支拂フ義務ヲ負フ

前項ノ支拂ハ荷送人並總テノ鐵道及船舶ニ對シテ之ヲ爲シタルモノトス

第八條 鐵道又ハ船舶ハ運送品ヲ受取リタル旨ヲ記載シタル運送狀ノ副狀

及運送狀ニ記載シタル金額ト引換ニ非サレハ運送品ヲ荷受人ニ引渡スコ

トヲ要セス但シ運送狀ノ副狀ヲ紛失シタル場合ニ於テ鐵道又ハ船舶ノ定

ムル規程ニ依リ荷受人カ運送品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラ

ス

第九條 運送品引渡ニ關スル手續ニ付テハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依

ル

第十條 運送品ノ全部若ハ一部ノ滅失又ハ毀損ニ關シテハ鐵道又ハ船舶ハ

直ニ運送品ノ狀態並損害ノ原因、額及發生時期ヲ證スル書面ヲ作成スヘ

シ運送契約ニ基キ運送品ニ付權利ヲ有スル者カ運送品ノ全部若ハ一部ノ

滅失又ハ毀損アルコトヲ主張スルトキ亦同シ

前項ノ書面ニ記載シタル事項ハ請求ニ因リ利害關係人ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條 荷受人ハ損害ノ調査ノ完了スル迄運送品ノ受取ヲ拒ムコトヲ得

第十二條 運送狀ニ掲ケタル物品中不足アルトキハ荷受人ハ運送品受取ノ

際鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ證スル書面ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 鐵道又ハ船舶ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取リ且運送貨其ノ他

ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此

ノ限ニ在ラス

一 荷受人カ鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ損害ノ生シ

タルコトヲ證明シタルトキ

二 荷受人カ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ第十六條第二項ノ鐵

道又ハ船舶ノ一ニ對シ延著ニ關スル損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

三 荷受人カ第十條第一項ノ規定ニ依リテ證明セラレタル運送品ノ一部

滅失又ハ毀損ニ付損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ

四 鐵道又ハ船舶カ第十條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ調査ヲ其ノ過失

ニ因リ爲ササリシ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付荷受人カ損害賠償

ノ請求ヲ爲シタルトキ

五 荷受人カ直ニ發見スルコト能ハサル運送品ノ一部滅失又ハ毀損ニ付

損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ但シ運送品ヲ受取リタル日ヨリ十四

日內ニ鐵道又ハ船舶ニ對シ一部滅失又ハ毀損ノ通知ヲ發シタルトキ

ニ限ル

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十四條 運送品カ到達驛又ハ到達港ニ達シタル後稅關又ハ保稅倉庫ニ之

ヲ引渡シタルトキハ其ノ後ニ生シタル運送品ノ滅失又ハ毀損ニ因ル損害

ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ任セス荷送人トノ間ニ於ケル契約ノ定

ムル所ニ依リ私設倉庫ニ引渡シタルトキ亦同シ

第十五條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル運送品ノ滅失、毀損又ハ延著

ニ付テハ鐵道又ハ船舶ハ其ノ責任ニ關シ特約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ特約ハ荷受人ニ對シ及荷受人ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第十六條 運送契約ヲ爲シタル鐵道又ハ船舶並運送狀ト共ニ運送品ノ引繼

ヲ受ケタル鐵道及船舶ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付連帶シテ損害

賠償ノ責任ニ任ス

前項ノ損害賠償ノ請求ノ訴ハ運送契約ヲ爲シタル鐵道若ハ船舶、最後ニ

運送狀ト共ニ運送品ノ引繼ヲ受ケタル鐵道若ハ船舶又ハ損害ヲ生セシメ

タル鐵道若ハ船舶ノ一ニ對シテノミ之ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ損害賠償ノ請求ハ本訴カ同一ノ運送契約ニ基ク場合ニ於テハ反

訴又ハ相殺ノ抗辯ニ依リ前項以外ノ鐵道又ハ船舶ニ對シ之ヲ主張スルコ

トヲ得

第十七條 引渡期間満了後三十日内ニ運送品ノ引渡ナキトキハ運送品ハ滅失シタルモノト推定ス

第十八條 鐵道又ハ船舶カ運送狀ノ副狀ノ呈示ヲ荷送人ニ請求セシテ其ノ指圖ニ從ヒタルトキハ鐵道又ハ船舶ハ運送狀ノ副狀ヲ所持スル荷受人ニ對シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第十九條 滅失シタル運送品ニ對スル賠償金ヲ受取リタル者其ノ受取證書中ニ運送品カ引渡期間満了後四月内ニ發見セラレタル場合ニ於テ直ニ鐵道又ハ船舶ヨリ通知ヲ受クヘキ旨ヲ記載シタルトキハ其ノ通知ヲ受クル權利ヲ有ス鐵道又ハ船舶ハ此ノ記載ヲ證スル書面ヲ交付スヘシ

運送品カ發見セラレタルトキハ前項ノ權利者ハ賠償金ヲ返還シテ發送驛若ハ發送港又ハ到達驛若ハ到達港ニ於テ無償ニテ運送品ヲ引渡スヘキコトヲ請求スルコトヲ得但シ前項ノ通知ヲ取ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 鐵道又ハ船舶ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ生シタル運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ハ三年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二十一條 損害賠償ノ請求權ノ消滅時効ハ運送品ノ一部滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ引渡ノ日ヨリ、運送品ノ全部滅失又ハ延著ノ場合ニ於テハ引渡期間満了ノ日ヨリ進行ス

第二十二條 運送貨又ハ附帶料金ノ不足額追徴ノ請求權ハ運送貨又ハ附帶料金ノ支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

割増金徵收ノ請求權ハ運送貨支拂ノ日ヨリ、支拂フヘキ運送貨ナキトキハ運送契約ヲ爲シタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

運送貨、附帶料金又ハ割増金ノ過徵額返還ノ請求權ハ過徵額支拂ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二十三條 鐵道又ハ船舶ニ對スル運送貨又ハ附帶料金ノ過徵額返還ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニ記載スヘキ事項及之ニ添附スヘキ書類ハ鐵道又ハ船舶ノ定ムル規程ニ依ル

第二十四條 運送貨若ハ附帶料金ノ不足額ノ追徴又ハ其ノ過徵額ノ返還ノ

請求權、割増金ノ徵收又ハ返還ノ請求權及運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ關スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ書面ヲ以テ請求ヲ爲シタル時ヨリ時効ノ進行ヲ停止ス

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ書面ヲ以テ拒絕ノ旨ヲ通知シ且請求書ニ添附シタル書類ヲ返還シタルトキハ其ノ通知及返還ノ時ヨリ殘餘期間ニ付時効ハ進行ス再請求ヲ爲スモ時効ノ進行ヲ停止セス

第二十五條 鐵道又ハ船舶ニ對スル損害賠償ノ請求權ニ付テハ民法第四百十五條及第五百八條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 運送契約ニ基ク裁判上ノ請求ニシテ鐵道又ハ船舶ニ對スルモノハ荷送人又ハ荷受人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 聯絡運送ニ關スル訴訟ニ付テハ民事訴訟法第八十八條第一項ノ規定ヲ適用セス

第二十八條 鐵道又ハ船舶カ他ノ鐵道又ハ船舶ヲ共同被告トシ連絡運送ニ基ク損害賠償ノ求償ノ訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ同一ノ判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘシ

第二十九條 聯絡運送ニ關シテ露國裁判所ノ爲シタル判決ノ執行判決ニ付テハ民事訴訟法第五百十五條第二項第五號ノ規定ヲ適用セス

第三十條 第八條但書、第九條及第二十三條第二項ノ規程ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ告示スヘシ

第三十一條 本法ニ於テ裁判所ト稱スルハ裁判權ヲ行フ官廳ヲ謂フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案ニ付キマシテ大體ノ説明ヲ致シマス、此案ハ法案ノ形式ハ異ツテ居リマスケレドモ、昨年ノ議會ニ於テ當院ニ提出ニナリマシテ當院ハ通過イタシマシタガ、衆議院ニ於テ其形式上ニ付キマシテ議論ヲ生ジ、ソレガ爲ニ政府ニ於テ撤回イタシタ法案デアリマス、當時ノ案ハ法律ニ據ッテ行政命令ニ大體ニ於テ委任スル法案デアリマシタケレドモ、今回ハ其現在ノ法律ニ及ボス各關係ニ付キマシテ更ニ法律ヲ規定スルノ方針ヲ採リマシタノデアリマス、此事柄ニ付キマシテハ日露ノ間ニ御承知ノ如ク南滿鐵道ニ依ッテ線

路ガ聯絡イタシテ居リマス、サリナガラ其旅客貨物等ノ輸送ニ付キマシテハ、旅客ノ方ハ先年協議ニ依リマシテ聯絡ノ途ガ付イテ居リマス、貨物ニ關シマシテハ旅客ノ纏マッタニ拘ラズ、其聯絡ノ協定ハ成立イタシテ居ラヌノデアリマス、ソレ故ニ段々關係鐵道並ニ船舶、即チ商船會社等ノ代表者ニ依リマシテ、露國ノ東清鐵道並ニ義勇艦隊ノ代表者ト協議ヲ致シマシテ、此貨物聯絡ノ輸送ニ關スル取極メヲ致シタノデアリマス、併ナガラ既ニ申シマシタ如ク此取極メヲ實行イタサセマスルニハ、兩國共ニ既定ノ法律ニ多少ノ關係ヲ及ボスノデアリマス、故ニ我ガ政府ニ於キマシテモ此抵觸スル部分ニ關シテ立法ノ方針ヲ採リマシテ、聯絡輸送ノ約束ヲ成立イタサシメテ、之ヲ實行ニ便利ナルヤウニ致サナケレバナラヌ譯デアリマス、ソレ等ノ事情ヲ以チマシテ此法案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、立法關係デアリマシテ詳細ノコトハ何レ委員會ニ於テ陳述イタスコト、致シマシテ、大體ニ於テ日本ノ領土ヨリ船舶ニ依リ又汽車ニ依ッテ露國トノ間ノ貨物ノ輸送ノ聯絡ヲ完成イタスガ爲ニ此法律ヲ必要トスル次第デアリマス、十分御審査ノ上、御協賛ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御質問モ無イト認メマスカラ次ノ日程ニ移リマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第二、陸軍作業會計法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

陸軍作業會計法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治四十五年三月九日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

陸軍作業會計法中改正法律案

陸軍作業會計法中左ノ通改正ス

第二條第一項中「建物」ヲ「土地建物」ニ改ム

第三條第一項中「東京及大阪砲兵工廠ハ」ノ下ニ「俸給諸給旅費廳費」ヲ加ヘ「建物」ヲ「土地建物」ニ改ム

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員岡市之助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(岡市之助君) 陸軍作業會計法中ノ改正案ヲ提出イタシマシタ理由ノ大要ヲ申述ベマス、今日マデ東京大阪ノ兩砲兵工廠ハ一種特別ノ作業會計ヲ取ッテ居リマシタ、ソレハ職員ノ俸給、諸給、廳費、旅費等ハ軍事費ノ補給ヲ受ケテ使用ヲシテ居リマス、土地モ一般會計ノモノヲ使用シテ居リマシタ、千住製絨所トハ趣ガ違ッテ居リマス、今日マデノ實驗ニ依リマスルト、陸軍ノ作業會計ノ統一ヲ闕イテ居リマスシ、又實行上不便不利尠カラヌ點ガゴザイマスノデ、之ヲ純然タル作業會計ニ引直シタイト云フ考デゴザイマス、之ガ爲ニハ特ニ費用ハ増加ハ致シマセヌ、今マデ軍事費支辨ヲ致シテ居リマシタモノヲ兵器費ノ方ニ組替ヲ致シマスニ止リマス、此案ハ四十六年度ヨリ實行ヲ致シタイト云フ希望ヲ有ツテ居リマスルガ、當年度ハ豫算編製ニ關係ガゴザイマスノデ當議會ニ提出ヲ致シマシタ次第デゴザイマス、御協賛ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 次ノ日程ニ移リマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第三、產牛馬組合法改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

產牛馬組合法改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十五年三月七日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵徳川家達殿

產牛馬組合法

第一條 牛又ハ馬ノ生産ニ從事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得

組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二條 組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給、牛馬ノ系統登録、牛馬ノ共濟保險ヲ爲サシメ又ハ糶場ヲ設ケシムルコトヲ得

第三條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ從事スル者及馬ノ生産ニ從事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ

第五條 組合ノ經費ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

組合經費徵收ノ方法ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 組合ニ於テ負債ヲ起サムトスルトキハ起債ノ方法、利息ノ定率、償還ノ方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條 組合ハ相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

組合聯合會ノ經費ハ聯合各組合ノ負擔トス

第八條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シ組合又ハ組合聯合會ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第九條 組合及組合聯合會ノ普及發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ主務大臣ノ認可ヲ經テ組合中央會ヲ設クルコトヲ得

組合中央會ハ組合及組合聯合會ヲ以テ會員トシ其ノ經費ハ會員ノ負擔トス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ本項以外ノ者ト雖會員ト爲ルコトヲ得

第十條 組合、組合聯合會及組合中央會ハ法人トシ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 監督官廳ハ何時ニテモ組合、組合聯合會及組合中央會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ事業ニ付認可ヲ受ケシメ事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令又ハ監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

第十三條 組合及組合聯合會ハ地方長官ニ組合中央會ハ主務大臣ニ各其ノ事務ニ關シ建議スルコトヲ得

又諮問アルトキハ答申スヘシ

第十四條 本法ニ規定スルモノノ外組合、組合聯合會又ハ組合中央會ノ設立、管理、分合、解散、精算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

附則

第十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十三年法律第二十號產牛馬組合法ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十七條 前條第二項ノ產牛馬組合法ニ依リ設ケタル產牛馬組合又ハ產牛馬組合聯合會ハ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

〔政府委員下岡忠治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(下岡忠治君) 本案ニハ政府ハ反對デゴザイマスカラ其意思ヲ表明シテ置キマス、簡單ニ其理由ヲ申上ゲマス、本案改正ノ眼目ニ當ッテ居リマスル點、即チ家畜ノ共濟保險ヲヤラウト云フコト、及中央會ヲ作ラウ、斯ウ云フ二點ゴザイマスルガ、此兩點トモ政府ハ必シモ反對デハゴザイマセス、趣意ニ於テハ反對デハゴザイマセスガ、此第一ノ家畜保險ト云フ事柄、此共濟保險ト云フ事柄モ至極結構ナコトデハアルケレドモ、共濟保險ニ關スル大體ノ制度ヲ大體決メテ、其制度ヲ決メタ上デ產牛馬組合ヲシテ斯ウ云フ仕事ヲヤラスト云フコトノ順序ヲ取ルノガ當リ前デゴザイマシテ、マダ其共濟保險ニ關スル如何ナル制度ヲ採ッテ宜イカト云フコトハ調査中ニ屬シテ居ルモノデアルカラ、直チニ產牛馬組合ヲシテ此仕事ヲヤラストガドウデアラウカト云フ點ト、又中央會ニ付キマシテモ、地方ニ於ケル產牛馬ニ關スル聯合會ト云フモノガ、マダ餘リ數ガ出來テ居ラス、將來其ガ段々數ガ出來ルト云フコトデアレバ、中央ニ於テサウ云フ機關ヲ作ルト云フコトモ必要デアラウガ、其點カラ考ヘテ見ルト時機尙早デハナカラウカト云フ考モゴザイマ

スカラ、旁、此兩點トモ直チニ現行法ヲ改正スルト云フコトガドウデアラウト云フ考デゴザイマスルノト、尙ホ本改正案中ニハ餘ホド其關點ガ澤山ゴザイマシテ、實行上ドウデアラウカト云フ懸念モゴザイマスルカラ、旁、之ニハ反對ヲスルノデゴザイマスルガ、併シ現行ノ產牛馬組合法ハ不完全ナル點ガ非常ニ多イカラシテ、是非之ニ付イテハ改正ヲ加ヘタイト云フ考デ、昨年來政府デモ其調査ヲ致シテ居リマスルカラ、其調べガ十分出來上ツタ上デ現行法ヲ改正シテ、現行法ノ不備ナル點ヲドコマデモ改メタイト云フ考ハ有ツテ居ルノデゴザイマスカラ、兎モ角モ本案ニ付イテハ據ロナク右様ノ次第デアルカラシテ、政府ハ同意スルコトガ出來ナイノデゴザイマス、御參考ノ爲ニ申上ゲテ置キマス

○藤田四郎君 一向心得マセヌデゴザイマスガ、現行ノ法律ニ於キマシテハ、第四條トカ、或ハ第十五條ノ如キモノガ既ニ有リマスノデゴザイマスガ、如何デゴザイマス、ソレカラ第六條……

〔政府委員下岡忠治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(下岡忠治君) 御答ヘ申上ゲマス、第四條ノ如キ規定ハ現行法ニゴザイマス、ソレカラ次ハ何デゴザイマシタカ

○藤田四郎君 第六條、第十五條……

○政府委員(下岡忠治君) 第六條ノ規定ハゴザイマセヌ、第七條ノ規定ハゴザイマス、是ハ現行ノ重要物產同業組合法ノ規定ヲ準用スト云フコトニナツテ、他ノ規定ヲ準用シテ居リマスケレドモ、實質上斯ノ如キ規定ハアルコトニナツテ居ルノデゴザイマス

○藤田四郎君 同業組合法ハイッ出來マシタ法律デゴザイマス、法律トシテハ……

〔政府委員下岡忠治君演壇ニ登ル〕

○政府委員(下岡忠治君) 此產牛馬組合法デゴザイマスカ

○藤田四郎君 同業組合法ニ準ズルト云フ……

○政府委員(下岡忠治君) 同業組合法ハ重要物產同業組合法トナリマシタノハ、其時期ハ今チヨット記憶イタシテ居リマヒヌデスガ、三十二年頃デハナカラウカト思ッテ居リマス

○藤田四郎君 法律ニナツタノハ、イツデゴザイマス

○政府委員(下岡忠治君) チヨット……

○藤田四郎君 法律デハゴザイマスマイ、ソレハ……

○政府委員(下岡忠治君) 重要物產同業組合法デスカ

○藤田四郎君 ハイ

○政府委員(下岡忠治君) 重要物產同業組合法ハ法律デゴザイマス

○藤田四郎君 既ニ現行ノ法律ニ於テモ稍、幾分ノ關點モアリマスヤウデゴザイマスガ、今日地方ノ情況ニ於キマシテ地方ノ人民ノ負擔力ト云フモノハナカク多クナツテ居リマス、一般ニ負擔ガナカク堪ヘナイヤウナ有様ニナツテ居リマス、斯ノ如キ法律ニ據リマシテ更ニ組合ガ或ハ借金ヲシ或ハ一時負債ヲ起シ、ソレニ依ッテ或ハ糶賣ヲスルトカ、種付ヲスルトカ或ハ共濟保險ヲスルトカ云フヤウナコトニナリマシタナラバ、此事ニ賛成セザル所ノ人民ハ馬ノ生産……牛馬ノ生産ノ爲ニ矢張り此組合ニ這入ラヌケレバナラス、這入ラストキニハ過料ニ處セラル、何遍デモ過料ニ處セラル、ト云フコトデゴザイマシテ、畢竟地方ノ負擔ヲ増スコト、思フ、勿論銘々ノ勝手ニ依ッテ負擔ヲ増スコトハ已ムヲ得ナイガ、法律ニ據ッテ斯ウ云フ負擔ヲ増サスト云フコトハ鈔カラザル困難ヲ生ズラウト思ヒマスガ、唯今政府ニ於キマシテモ私ノ意見トハ違フ所ノ點ニ於テモ反對デアルト云フコトデゴザイマスレバ、旁、本案ハ誠心誠意國家ノ爲ニ否決アラムコトヲ希望イタシマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 他ニ御質問ガゴザイマセネバ次ノ日程ニ移リマス

○副議長(侯爵黑田長成君) 第四、水道條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

水道條例中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十五年三月七日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵德川家達殿

水道條例中左ノ通改正ス

第二條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

同條第二項ヲ削ル

第三條第二項中「元資償却ノ方法」ヲ削ル

第十七條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

○藤田四郎君 先刻ノハモウ委員ニ付託ニナリマシタノデゴザイマスカ

○副議長(侯爵黑田長成君) ナル筈デゴザイマス

○藤田四郎君 是ハ衆議院提出案デゴザイマスガ、默ッテ居テナリマスカ

○副議長(侯爵黑田長成君) ナリマス

〔政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(水野鍊太郎君) 本案ハ衆議院ノ提出案デゴザイマスルガ、政府

ハ之ニ同意イタシタノデゴザイマス、依ッテ其理由ヲ簡單ニ申上ゲテ置カウト思ヒマス、御承知ノ如ク水道條例中改正法律案ハ昨年モ出タノデゴザイマシテ、昨年ハ當院ノ協賛ヲ經マシテ其改正案ガ現行法律トナッタノデゴザイマス、然ルニ昨年ノ法律ニ據リマスルト云フト、市町村以外ノ企業者ガ水道事業ヲ經營スルニ付キマシテハ種々ノ制限ガアルノデゴザイマス、例ヘバ土地開發ノ爲デナケラネバナラス、或ハ又其企業者ガ水道事業ヲ經營スルノニハ元資償却ヲ目的トスル場合デナケラネバナラス、然カモ其元資償却ト云フノハ敷設費及其利子ト云フ風ニ限定イタシマシテ、其利子モ年五分以内トスルト云フヤウナ種々ナ條件ガ附イテ居リマス、又他日ハガ公共團體ニ歸屬スル場合ニ於キマシテモ無償デ歸屬スルト云フコトニナッテ居リマシテ、折角水道ノ普及ヲ圖ルガ爲ニ私設經營ヲ許シマシタガ、斯ル條件ガアリマスルガ爲ニ私人ガ之ヲ經營スルコトガ甚ダ困難デアルト云フ實況デアリマシタ、今日ノ經濟狀態ニ於キマシテ利子ガ五分以内デアルトカ、或ハ元資償却ヲ限度トスルトカ云フヤウナ事デアリマシテハ、ドウシテモ私設經營ハ出來ナイト云フヤウナコトニナリマス、此法律發布以來、私設經營ヲ企圖イタシテ居ル者ハ有ルノデアリマスルケレドモ、事實ニ於テ行ハレナイト云フコトデ、現ニ願出テ居ル者モ從前カラノ此法律ニ據リマシテ願出テ居ル者ガ僅カ一人アルト云フコトデアリマス、然カモソレモ許可シ得ラレナイト云フ狀態デアリマス、然ルニ一面ニ於キマシテハ市以外ノ町村ニ於キマシテモ水道ノ布設ヲ必要トスル者ガ多クアルノデアリマス、御承知ノ如ク市ト雖モ尙ホ國ノ補助ヲ俟タナケレバ水道事業ヲ行フト云フコトガ出來ナイト云フ情況デゴザイマス、況ヤ町村ニ於キマシテハ、ドウシテモ補助ガ無ケラネバ行ハレナイト云フコトデアリマスガ、然カモ是等ノ總テノ市町村ニ對シテ國カラ補助ヲ與ヘルト云フコトハ今日ノ情況ニ於テ行ハレ難イコトデアリマス、水道ノ普及ヲ圖ル爲ニハ昨年出マシタ法律ト同一趣旨ニ基キマシテ水道ノ普及ヲ圖ルガ爲ニ今日ノ狀態ニ於テハ私設企業ヲ許スト云フコトノ已ムヲ得ザルモノアルヲ認メテ居ルノデアリマス、其主義ハ昨年既ニ水道ノ如キ公共事業ハ市町村ニ限ルト云フコトデアリマシタケレドモ、尙ホ已ムヲ得ザル場合ニハ私設企業ヲ許ス主義ヲ認メタノデアリマス、唯其私設企業ニ對シマシテ唯今申述ベマシタ如ク各種ノ制限ガアリマス爲ニ之ヲ實行スルニ困難デアルト云フコトデアリマシタカラ、ソレ等ノ制限ノ上ニ已ムヲ得ナイモノヲ削ッテ、事實ニ於キ

マシテ水道ノ普及ヲ圖ル必要ガ有ルト云フノデ、此法案ガ是等ノ點ノ修正案トシテ出タノデ、段々取調ベマシタガ、今日ノ實況ニ於キマシテハ是ハ已ムヲ得ナイモノト認メマシテ、詰リ市町村ノ如キ公共團體ノ利益ト私設企業ト相戾ラザル範圍ニ於キマシテ之ヲ認メルト云フコトハ水道事業ヲ普及セシメルト云フ上ニ於テ必要ナリト認メマシタノデアリマス、因ッテ此理由ニ依リマシテ政府ハ此法律案ニ同意ヲ表シタ譯デゴザイマス

〔議長公爵德川家達君議長席ニ著ク〕

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五、關稅定率法輸入稅表中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十五年三月七日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵德川家達殿

關稅定率法輸入稅表中左ノ通改正ス

一七五 鹽化加里及硫酸加里

一 精製ノモノ

從 價

二 割

二 其ノ他

無 稅

附 則

本法ハ明治四十五年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員櫻井鐵太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(櫻井鐵太郎君) 本案ハ衆議院ノ提出ニ係ル法律案デゴザイマス、燐寸ノ藥品トナリマス「クロール」酸加里ノ製造ノ原料、又人造肥料ノ原料トナリマス所ノ鹽化加里、之ヲ無稅ト致ス法律案デアリマス、本案ニ對シマシテハ政府ハ同意ヲ表シテ居リマスルカラ、然ルベク御審議ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六、水利組合法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

〔河井書記官朗讀〕

水利組合法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十五年三月九日

衆議院議長 大岡 育造

貴族院議長公爵德川家達殿

水利組合法中左ノ通改正ス

第九條ノ二 水利組合ノ事業施行ノ爲灌漑排水ヲ爲ス土地ニ付登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

〔政府委員菅原通敬君演壇ニ登ル〕

○政府委員(菅原通敬君) 本案ニ對シマシテハ政府ハ反對ヲ致シテ居リマスル故ニ、其理由ヲ簡單ニ申上ゲテ置キマス、本案ハ法文ノ意義ガ甚ダ明瞭ヲ關イテ居リマスルガ、其趣旨ト致シマスル所ハ水利組合員ガ……水利組合ガ行ヒマスル排水灌漑ノ利便ヲ利用イタシマシテ土地ノ開墾又ハ地目變換等ヲ致シマスル場合ニ、其土地ニ付イテ登記又ハ登録ヲ受ケマスル場合ニ於テ其登録稅ヲ免除セムトスルノニ在ルノデアリマス、水利組合ニ於キマシテ其目的タル灌漑排水ノ事業ヲ行フニ付キマシテ、其必要トスル土地ニ付イテ登記又ハ登録ヲ受ケマスル場合ニ於テハ、現ニ登録稅法第十九條ニ於キマシテ登録稅ヲ免除スルコトニナッテ居ルノデアリマス、此點ニ於テハ勿論論ハ無イノデアリマス、然ルニ本案ノ如クナリマススト云フト、水利組合ノ組合員ガ其水利組合ニ屬シテ居ルト云フノ理由ヲ以チマシテ、組合員ガ個々ニ行ヒマスル開墾ナリ又ハ地目變換ニ付イテ登記ヲ受ケマスルトキニ於テ登録稅ヲ免除スルト云フコトニナルノデアリマスカラ、甚ダ其理由ニ乏シイコト、思フノデアリマス、恰モ此場合ハ各一個人ガ或ハ溜池ヲ附ケマスとか、或ハ水路ヲ設ケマスとか云フコトニ依ッテ、ソレヲ利用イタシマシテ、開墾又ハ地目ヲ變換スル場合ト少シモ擇ム所ハ無イノデアリマス、故ニ此レニ課稅イタシマシテ彼レノ場合ニ免稅ヲ致スト云フコトニナリマススト云フト、其間ニ公平ヲ失フト云フコトニナルノデアリマシテ、本案提出ノ理由書ニアル如ク耕地整理ノ場合トノ權衡ヲ論ジテ居リマスノハ是ハ甚ダ當ヲ得スト思フノデアリマス、御承知ノ通り、耕地整理ノ場合ニ於キマシテハ、土地ノ交換ヲナシ、又ハ分合ヲナシ、或ハ開墾ヲナシ、又ハ地目變換ヲ致スト云フコトガ、其耕地整

理組合ノ事業トナツテ居ルノデゴザイマス、而シテ耕地整理ニ於キマシテハ、其耕地整理ノ結果ト致シマシテ土地ガ改良セラレマシテ、其土地ノ價ガ増スコトガアリマシテモ、土地ノ地價ハ動カサスコトニ致シテ居リマス、即チ從前ノ負擔ト云フモノハ變更イタサスコト云フコトヲ原則ト致シテ居ルノデアリマス、殊ニ土地ノ交換ヲ致スコト云フヤウナコトハ、普通ノ土地所有權ノ移轉トハ大ニ其趣ヲ異ニ致シテ居リマスル故ニ、此場合ニ於テハ登錄稅ヲ免除イタスコト云フコトニナツテ居リマス、然ルニ水利組合ノ場合ニ於キマシテハ全ク之ト趣ヲ異ニ致シテ居ルノデアリマシテ、水利組合ノ事業ト云フモノハ、灌漑排水ヲナスコト云フノニ在ルノデアリマスデ、灌漑排水ヲ致シマシテ其個人ガ……利便ヲ利用イタシマシテ各個人ガ或ハ開墾ヲ致シ、或ハ地目變換ヲ致スコト云フコトハ、全ク獨立シタル行爲ニナツテ居ルノデアリマシテ、水利組合ノ事業其モノト直接ノ關係ハ有ツテ居ラスノデアリマス、ソレデアリマス故ニ、此場合ニ於テ若シ登錄稅ヲ免除イタスコト云フコトニナリマスコト云フト、此一般ノ人々ガ地目變換又ハ開墾ヲ致ス場合ニ於テ登錄稅ヲ課セラレルト云フモノトノ間ニ大ナル不權衡ヲ生ズルト云フコトニナルノデアリマシテ、甚ダ宜シクナイコト、思フノデアリマス、故ニ之ニ向ッテハ反對ヲ致シテ居ルノデアリマス、ドウゾ本案ハ否決セラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十五年三月九日

右特別委員長

男爵 眞田 幸世

貴族院議長公爵德川家達殿

〔男爵眞田幸世君演壇ニ登ル〕

○男爵眞田幸世君 唯今ヨリ此衆議院カラ送付ニナリマシタ群馬縣下郡界變更ニ關スル法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタス積リデアリマス、本案ノ委員會ハ、去ル九日ノ議事散會ノ後ニ午後一時カラ開キマシテ正

副委員長ノ互選ヲ行ヒマシテ、引續キマシテ會議ヲ開キマシタ、初メニ當リマシテ政府委員ノ意思ノ在ル所ヲ詳細ニ聽取リマシテ、ソレカラ質問ニ移リマシタ、委員ノ方ヨリ詳細ナル御質問モ多クアリマシテ後ニ採決イタシマシタ所ガ全會一致ヲ以テ否決ト云フコトニナリマシタ、其否決ニナリマシタ理由ヲ申上ゲマスルニ付イテハ政府ノ意向ノ在ル所カラ申上ゲヤウト思ヒマス、抑、此案ハ群馬縣下ノ山田郡ノ内ノ毛里田村、韭川村、矢場川村、休泊村ヲ同縣新田郡ニ編入スルニ過ギナイノデゴザイマス、此案ハ衆議院ニ元ト請願トシテ二三回出テ居リマス、本院ニモ數回出テ居ル案デアリマシテ、既ニ昨年本院ニ於テハ不採擇ニナッタ案デゴザイマス、トコロガ政府ニ於キマシテ其都度不同意ヲ唱ヘテ居ル案デゴザイマス、今回モ此特別委員會ニ於キマシテハ政府ハ絕對ニ反對ト申ス譯デモゴザイマセスガ、現今ノ所ハ不同意ト云フコトデゴザイマス、其譯ヲ申上ゲマセウト思ヒマス、此山田郡ハ二箇町十箇村ヨリ成ツテ居ル郡デアリマス、其人口ハ八万二千人ゴザイマス、又直接國稅ハ十五萬圓負擔シテ居ルヤウデアリマス、然ルニ此毛里田村外三箇村ニハ人口一万九千ヲ有ツテ居リマシテ、直接國稅ハ五萬圓ノ負擔デアルヤウデゴザイマス、其十箇村ノ内、四箇村ヲ新田郡ニ編入イタシマストキハ人口戸數トモ餘ホド減ル譯ニナリマス、又直接國稅ノ額ニ於キマシテモ其三分ノ一ヲ失フ譯ニナリマス、然ルトキハ其殘餘ノ町村ハ其負擔額ヲ増ス譯ニナリマシテ、郡ノ事業ノ經營ニ甚ダ困難ヲ感ズルヤウナ次第二ナリマセウト思ヒマス、ソレデ山田郡ハ唯今、郡立高等女學校モ立ッテ居リマシテ、是ガ經費ハ八千圓餘モ要シテ居ル、其他郡費トシテ支出シテ居ル額ハ總計九千七百圓デアルヤウデアリマス、而シテ尙ホ此山田郡ノ内ノ桐生町ハ人口ガ三万二千人アルヤウデアリマス、最モ繁盛ナル機業地デゴザイマス、若シ將來此桐生町ニ市制ヲ施行サレマス場合ニナリマスレバ自然、山田郡ヨリ分離サル、ヤウニナルデアリマセウ、故ニ山田郡ハ益、小サナ郡ニナラナクレバナリマセス、然ルトキハ郡ノ獨立ヲ保ツ上カラ見マシテモ甚ダ苦シイ境遇ニナルカモ知レナイト思フノデアリマス、或ル論者ノ申スコトニハ、サウ云フ場合ニハ小郡ヲ合併シテ仕舞ヘバ差支アルマイト云フヤウナ説モアルヤウデアリマス、併ナガラ郡ノ廢置分合ト申スコトハ、政府委員ノ申スニモ輕シク實行スルコトハ出來ナイモノデアルト申サレテ居リマス、ソレニ土地ニハ舊慣ト云フモノガアリ、又人情風俗等ニ付キマシテモ慎重ノ考慮ヲ要シ、又十分ノ調査ヲ遂ゲタ上デ

ナケレバ政府ニ於テハ同意ヲスルコトハ出來ナイト申スコトデアリマス、ソレデ此法案ノ内容ニ付イテ少シク御話ヲ申上ゲマス、サテ此法案ハ請願ガ元デアリマシテ、其請願ノ趣意ヲ少シク申上ゲマスレバ、此山田郡ノ四箇村ハ詰リ水利上及郵便、電信又ハ登記等ノコトニ依リマシテモ山田郡ノ郡役所ノ在ル桐生町ニ參リマスニハ五里以上モアリマシテ、又租稅ナドヲ納メル場合ニハ泊リ掛ケナド行カナケレバナラヌト云フ遠距離ニ在ルノデアリマス、新田郡ノ郡役所ノゴザイマス太田町ニ參リマスニハ近キハ、七八町、遠キモ一里ホド隔タナイノデゴザイマス、ソレ故ニ太田町ニ行ク方が甚ダ便利デアルト云フ故ヲ以テ此法案ヲ出サレタヤウナ次第デアリマス、併シ此特別委員會ニ於キマシテハ前ニ申上ゲマシタ通り、政府ノ意思ト同一ノ意向ヲ以チマシテ、今回ハ否決スルコトニ相成リマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス、終リニ臨ンデ申上ゲテ置キマスガ、若シ此案ニ付イテ御質問等モゴザイマスレバ、私ヨリ不完全ナル御答ヘヲ申スヨリモ政府ノ意思モ出テ居リマスカラ、ドウカ政府委員ニ御質問ノアルヤウニ願ヒタウゴザイマス、此段御報告申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モ無イト認メマスカラ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ナイト認メマス、本案ハ否決セラレマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ニ移ル筈デゴザイマスガ、此際諸君ニ御諮リヲ致スコトガゴザイマス、中島永元君ヨリ、過日同君ヨリ政府へ提出セラレマシタ質問ノ趣意ヲ述ベラレタイト云フ要求ガゴザイマス、此際其要求ヲ許シテ宜シイヤ否ヤ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 中島永元君

〔左ノ質問主意書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕
財政ニ關スル質問主意書

一 近來制限外兌換銀行券ノ發行頻繁ニシテ殆ムト無制限ト異ナルナシ其

ノ結果物價騰貴輸入超過ノ一大原因ヲ爲セルコト顯著ナリ今ヤ當局者ノ抑制策ニ依リ制限外發行ハ消滅シタリト雖モ是レ一時ノ現象ナラム政府ハ根本的ニ紙幣ヲ收縮スルノ意見ナキ乎

二 本位正貨ハ公私ノ外國債利拂及貿易不均衡ノ爲メ年一年ヨリ減少ノ度ヲ増シ消盡ノ期將ニ近キニアラムトス政府ハ如何ニ之ヲ救済セムトスル乎

三 我國力ノ發展ハ主トシテ工業ニ俟タサルヘカラス然ルニ勞力餘リアリテ工業振起セサルハ畢竟物價騰貴ノ爲メ工費多クシテ損益相償ハサルニ因ル之ニ對スル政府ノ意見如何

四 內國金融機關近來著ルシク發達シ各種銀行ノ預金郵便貯金ノ如キ既ニ巨額ニ上リ尙ホ年々増加ノ趨勢ナレハ融通力ノ餘地アルコト疑ヲ容レス然ルニ私債ハ兎モ角モ國債地方債ニシテ動モスレハ外國ヨリ募集シ國家ノ不利ヲ顧慮セサル傾向アルハ如何ナル理由ニ依ル乎

右議院法第四十八條ニ依リ及質問候也

明治四十五年三月七日

提出者

中島 永元

贊成者

公爵二條 基弘

外三十一名

〔中島永元君演壇ニ登ル〕

○中島永元君 本員ハ今議長ヨリ御宣告ニナリマシタル通り過日提出イタシマシタル質問書ニ付キマシテ少シ趣意ヲ御參考ノ爲ニ申述ペヤウト思ヒマス、此趣意ヲ述ベマスルニ先ダチマシテ一言申上ゲテ置カネバナラヌコトガゴザイマス、ソレハ質問ト殆ド同一ノ事柄ガ近ゴロ新聞紙上等ニ問題トナツテ居リマシテ、私ノ質問モ或ハ之ガ動機トナツテ提出シタカノヤウニ誤解スル人ガ無イトモ限リマセヌガ、私ハサウ云フ本意デハアリマセヌ、此問題ハ久シク研究シツ、アル問題デゴザイマシテ、我が經濟界ノ近狀頗ル悲境ニ陥ッテ居リマス、ソレ等ノコトニ付イテハ豫ネテ同志者諸君等ニモ御相談ヲシ或ハ研究ヲシテ、サウシテ其研鑽ヲ重ネマシタ末、政府モ整理整理トハ言ハレマスケレドモ、少シマダ不安心ノ所モアリマスカラ注意ノタメ建議書デモ出サ

ウ、或ハ質問書デモ出シタ方ガ宜カラウト云ヒ居ル所ニ、丁度アノコトガ起
リマシテ、銀行集會所デ何カ懇親會ノ席上デ、酒席カ何カ席上デ演説ガ花ガ
咲イテ、ソレガ世間ノ問題トナリマシテ、其事柄ガ幸カ不幸カ丁度私ドモガ質
問デモシヤウト思フコト、殆ド同様ノコトデゴザイマス、少シ提出スルニモ
ドウデアラウカト躊躇シタ位ノコトデゴザイマス、併ナガラ折角思ヒ立チマ
シタコトデゴザイマスカラ、ソレ等ノ情實ニ拘ラズ、遂ニ提出ヲ致シマシタ、
此邊ノ事情ガ若シ誤解ヲ致サレマスレバ、私ノ迷惑ハ構ヒマセヌケレドモ、
折角御賛成ヲ爲シ下サレタ諸君ニ對シマシテモ相濟マヌ譯デゴザイマス、一
應此事ハ申上ゲテ置キマス、此事情ハ能ク同志者諸君ハ御承知ノコトデゴザ
イマス、ドウカ此邊ノ事情ハ御諒察ヲ願ヒタウゴザイマス、サテ此質問ニ移
リマスルガ、凡ソ此經濟問題ト申シマスルモノハ、諸君モ御承知ノ通り頗ル
錯雜デゴザイマシテ、就中、貨幣論ノ如キハ研究スレバ研究スルホド却ッテ
ムヅカシクナッテ、右ト云ヒ、左ト云ヒ、白トカ、黒トカ何トデモ理窟ハ付
クヤウナモノデゴザイマシテ、ナカ／＼面倒ナ問題デゴザイマス、又私ハ斯
ノ如キ學識モゴザイマセヌ、教師ガ學校デ教科書ヲ講釋スルヤウナ譯ニ參リ
マセヌ、ソレデ唯實際ヨリ研究ヲ致シマシテ、目下我國ノ經濟ノ斯ク悲境ニ
陥ッテ居ルノハ、如何ナル原因カラ來テ居ルデアラウ、又此狀況ヲ救済スル
ニハ如何ニシタラ宜イデアラウト云フヤウナ國家ノ前途ヲ憂慮イタシマス所
ヨリ、實際ノ統計表トカ又ハ兌換制度ノ是マデ如何ニ運用サレテ居ルカト云
フヤウナ實際ノ事ヲ研究イタシマシテ、素人的ニ判斷ヲ下シテ遂ニ茲ニ提出
イタスヤウナ譯ニナリマシタ、併ナガラ一言茲ニ申シテ置キマセネバナリマ
セヌコトハ、此今問題ニナッテ居リマスル兌換券ハ通貨テナイトカ、通貨ノ膨
脹ハ物價ニ影響シナイトカ云フヤウナコトハ一言辯ジテ置キマセネバ私ノ此
質問ハ、マルデ無用ナモノニナッテ仕舞ヒマスカラ、其事ハ一言シテ置カウト
思ヒマス、モト私ノ此第一項ノ趣意ハ政府ハ根本的ニ紙幣ヲ收縮スルノ意見
ナキヤ、是ダケガ第一ノ眼目デゴザイマス、其前ノ所ハ誰ニモ分カルコトデ
ゴザイマシテ、別段説明ナドモ要ラヌ積リテ居リマシタ、併シ今茲ニ説明ノ
必要ヲ感ジマシタカラ申上ゲマス、此兌換券ガ法律ノ力ヲ以テ國內一般ニ
強制的ニ流通シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマシテ、約束手形ヤ小切手
ナド、ハ同一ノモノデアリマセヌ、此手形類ハ甲乙ノ人が相互間ノ信用ニ依
リマシテ受渡シラスルト云フモノデアリマシテ、強制的ニ紙幣ノヤウニ流通

スルコトハ出來マセヌ、又法令其他ノ公文ノ中ニモ通貨トカ現金トカ書イテ
アリマスルトキニハ、イツデモ兌換券ヲ以テ換ハルモノデアリマシテ、有價
證券ナド、ハ別段ニ區別シテアリマス、又甚ダ平凡ナ例證デハゴザイマスケ
レドモ、我々ガ政府ヨリ受取ッテ居ル歳入歳出ノ豫算參考書ニモ兌換券ハ紙
幣ノ中ニチャント明カニ數ヘテアリマスル、先ヅ素人ノ判斷デハ此事ガ一番
力ガ強カラウト思ヒマス、別段ニ學說ナドヲ引出サヌデモ宜カラウト思ヒマ
ス、又ソレダケノ事ハ出來マセヌ、若シ又兌換券ガ通貨テナイト申シマスレ
バ、今日日本ニハ殆ド通貨ハ無イト云ッテ宜イ、金貨ト云フモノハ一向流通シ
テ居リマセヌ、是ハ日本人デモナカ／＼見タ人ハ少イト云フ位ナ、マア有様
ニナッテ居リマシテ、其他補助貨モアリマスケレドモ、此補助貨ト云フモノハ
法貨デアリマセヌカラ、十圓マデハ法貨トシテ通用イタシマスケレドモ、十
圓以上ハ相手ノ人が受取ラヌト言ヘバ渡スコトハ出來マセヌ、ダカラ兌換券
ガ重モニ通貨トナッテ居リマス、マア此事ハ別段ニ長ク説明スルコトモアル
マイト思ヒマス、ソレデ通貨ノ膨脹ハ物價ニ影響ナシト云フコトデゴザイマ
ス、此事モ少シ申上ゲテ置カウト存ジマス、是ハ矢張り經濟普通ノ原則デ「グ
レシャム」モ惡貨幣ハ良貨幣ヲ驅逐スルトカ云フヤウナコトヲ言ッテ、學者モ
是ハ原則トカ何トカ言ッテ居リマス、此二ツノモノニ依ッテ之ヲ解釋シテモ直
チニ分カルト思ヒマス、凡ソ物ガ多ケレバ廉ク、又少ケレバ高イト云フコト
ハ、是ハ經濟普通ノ原則デアラウト思ヒマス、ソレデ銀塊ガ多ク產出イタシ
マスレバ、銀貨ガ廉クナッテ銀貨本位ノ國ノ物價ハ高クナル、ソレカラ又金
ノ產出ガ多クナリマシテ近ゴロ世界デ大分、金ガ出テ居リマス、其金ガ多ク
出マスレバ、金貨本位ノ國ハ物價ガドウシテモ高クナルト云フヤウナコトハ、
是ハモウ一般ニ認メテ居ッテ、近ゴロハ西洋デモ此物價騰貴ノ原因ヲ之ニ大概
見テ居ルヤウデゴザイマシテ、頻ニ今頃マシクナッテ居リマス、其道理カラ申
シマスレバ、紙幣モ多ク發行スレバ、是ハ固ヨリ紙ノコトデアリマスカラ、尙
更價ガ下落シテ物價ハ愈、騰貴スルト云フコトハ、是ハモウ自然ノ原則デアラ
ウト思ヒマス、サリナガラ此紙幣ハ御承知ノ通り、モト正貨ノ代表貨幣デアリ
マスカラ、正貨準備ニ對スル兌換券ノ發行ハ物價ヲ高クスルコトハ無イト學
者ナドモ言ッテ居ルヤウデアリマス、是ハ勿論ノ話デアリマス、何トナラバ
正貨ハ銀行ノ金庫ノ中ニ貯藏シテ居ル、サウシテ其代リニ流通シテ居リマス
カラ、通貨ハ少シモ殖エマセヌ、膨脹イタシマセヌ、是ハ物價ニ關係ガアル

譯ハナイ、併ナガラ此保證準備ニ對スル兌換券ノ發行ハ、是ハ發行ノ高ダケ通貨ヲ膨脹スル譯ニナリマスルカラ、一時物價ヲ騰貴セシムルコトニナリマス、而シテ其物價ガ騰貴ノ結果ハ外國貨物ガ這入リマス、外國貨物ノ輸入ヲ誘致スルコトニナリマスルカラ、遂ニ又硬貨ガ出テ行ク、硬貨ト紙幣ト並ビ行ハレテ居リマスル國デアリマスレバ、其硬貨ガ出テ行キマスルカラ、其出テ行クダケハ通貨ヲ收縮イタシマスルカラ物價ハ平準ヲ保ツ、斯ウ云フコトニナルト思ヒマス、其論理ヨリ致シマシテ、本邦ニ於テハ紙幣ノ發行益、多キヲ加ヘルニ從ヒマシテ、硬貨ガ愈、流出イタシマシテ、サウシテ遂ニ流出シ盡シテ、モウサツバリ無イヤウニナリマス、ソレデ今ヤ通貨ノ全部ガ紙幣トナツテ……紙幣ト申シマスルモノハ御承知ノ通り是ハ自然ニ伸縮スルコトハ出來マセヌ、自然伸縮ノ機能ヲ持チマセヌ、人爲デナクテハ……ソレデ膨脹スレバ膨脹スルダケ物價ガ高クナツテ行キマス結果ハ、物價ト貨幣ト平準ヲ保ツト云フコトニナツテ居ル譯デアリマス、ソレデ私ノ述べマシタ所ノ理窟カラ申シマスレバドウシテモ今我國ノ通貨ハ多過ギルト云フコトハ顯然ナコト、存ジマス、多過ギルト云フ觀察ハ誤リハ致シマセスケレドモ、併シ此紙幣ヲ大ニ收縮イタシマシテ物價ノ低下ヲ圖リ、硬貨ガ人爲デナク自然的ニ外國ヨリ流入スルト云フ時機ニ達シマセヌ間ハ、我が通貨ノ尺度ト云フモノハ何人ニモ實ハ分カラヌ、測定ガ出來ナイ譯デアリマス、ソレデソレマデハ正貨ヲ外國ニ保留シテ置クコトハ寧ろ安全ノ策ト言フノ外ハアルマイト信ジマス、實ニ慨歎ノ至リデゴザイマス、物價騰貴ハ無論、兌換券ノミデハゴザイマセヌ、其原因ハイロ／＼ニアリマス、重稅トカ或ハ金利トカ或ハ世界ノ金ノ產出額ガ多イトカ云フヤウナコトハ枚舉ニ遑アラヌ位ゴザイマス、畢竟今日ノ狀態ニ立至リマシタ原因ハ申スマデモナク二度ノ大戰役ニアリト觀察スルガ至當デアラウト思ヒマス、ソレデマデ其大戰役ノ……大事變ノ創痕ガ未ダ癒エズト云フ狀態ニ今アリト思ヒマス、ソレデ政府モ大ニ此際決心ヲ持タレテ何所マデモ整理ヲ付ケテ貰ハネバナラスト思ヒマス、ソレデ私ノ此一方ノ眼目ト致シマスル所ノ、將來如何ニ此制度ヲ改正シテ永久的ニ紙幣ガ増サヌヤウニシタラ宜イデアラウカト云フ考カラ少シ意見ヲ申上ゲマス、私ノ本來ノ主義ハ此伸縮制限法ヲ餘リ好マイ方デゴザイマス、矢張り英國ノ如ク全ク制限外ノ發行ヲ許サヌト云フコトニシタイト云フノガ元ノ主意デゴザイマス、サウ致シマスレバ正貨モ多少流通スルヤウニナルデアラウト云フ見込デゴザイマスルケレ

ドモ、多年習慣トナリマシタ此法規ヲ一時ニ廢止スルト云フコトハ容易ノコトデゴザイセスカラ、一步ヲ譲リマシテ此制限外發行稅ノ五分率ヲ七分以上ニ引上ゲテ、サウシテ成ルダケ非常ノ時デナケレバ制限外發行ガ出來ナイト斯ウ云フ風ニシタイト思フ、抑、伸縮制限法ノ本旨ヲ全クセムトシマスルニハ日本現時ノ程度ニ於テハ五分率グラキノ稅率デハ之ヲ抑ヘルコトガ出來マセヌ、試ニ二十七年來ノ日本銀行ノ公定利率ヲ調査イタシマシタ所ガ、其平均利率ハ割引ニ於テ七分強ニナツテ居リマス、貸付ニ於テハ七分八厘強ニナツテ居リマス、ソレデアリマスルカラ是ハ十何年カノ平均率デゴザイマス、割引、貸付、共ニ七分以上ニナツテ居リマス、サウ云フ狀態デアリマスルカラ此五分稅デハ少シ壓縮力ガ薄弱デゴザイマス、ソレデ之ヲ濫用シテ二十七年以來、「近來」ト書キマシタケレドモ實ハ二十七年以來ノコトヲ示シタ積リデス、二十七年以來慣習ヲ爲シテ今日ニ至リマシタ、是ハ偶然ノコトデハナイ、矢張り理由ガアツテ斯ウナッタノデス、併ナガラ私ガ今申ス通りニナリマシタナラバ、實業社會等ニ於キマシテハ利息ガ高クナツテ困ルト云フコトガ必ズ議論ガ起ルデアラウト思ヒマスガ、是ハ唯一時ノコトデゴザイマス、從來ノ如ク容易ニ發行シナイ、關門ヲ開カヌト云フコトニナリマスレバ、當事者モ戒心ヲ致シマスルシ、ソレ／＼用意モアリマスルカラ、ナカ／＼其發行ノ度數ガ今ノヤウニ頻繁ニナルコトハアリマスマイト思ヒマス、固ヨリ是ハ非常ナ何カ危急ナ場合ニ、ドウシテモ救助ヲ仰ガネバ行ケナイト云フ時分ニ開イテ發行ヲスルト云フコトガ、是ガ元ト此伸縮法ノ精神デゴザイマスルカラ、ソレデ度數ガ少クナリマス、又回收モ速ニナリマスル、是ハ一時ノコトデアリマスルカラ一般ノ利子ニサウ影響スルト云フヤウナコトハアルマイト思ヒマス、又法律ニ五分以上トアルカラハ監督官廳ガ七分デモ八分デモ取ルコトガ出來ル、別段法律ヲ改正スルニ及バナイデハナイカ、斯ウ云フ論ガアルト思ヒマス、是ハ現ニ政府委員等ヨリモ豫算委員會ニ於テ聽イタコトデアリマスルガ、併ナガラ其制限外發行ヲ請求スルモノハ多クハ此政府ノ財政ノ都合ニ依ルト思ヒマス、却ツテ市場ヨリハ政府ノ方ガ多クハアルマイカト思ヒマス、是ハ分リマセスケレドモ……政府モ亦サウ云フ事情ガアルノモ是ハ已ムヲ得ヌ事情ガアルト見ネバナリマセヌ、是ハ納稅ノ期限ガ遅クシテ仕拂ハ年度ノ初メカラ拂ハネバナラスト云フトキニ必ズ日本銀行ニ頼ムデアラウト思ヒマス、サウ云フコトデアリマスルカラ五分以上ノ率ヲ取ルト云フコトハ人情義理ニモ出來ナ

イコト、思ヒマス、實際五分以上ノ高率ヲ課シタコトハ何デモ一兩度アルサ
ウデアリマス、ソレハ唯話デ能ク分リマセヌ、若シ五分以上トアルカラ政府
ノ見込次第幾ラデモ取レルト云フコトデゴザイマスレバ、二分ト書イテモ
三分ト書イテモ宜イト思ヒマス、三分以上ト書イテモ或ハ全ク書カイデモ差
支アリマセヌ、稅率ヲ示サズニ適宜課稅スト書イテモ宜シウゴザイマス、併
ナガラ七分トアレバ、ドウシテモ七分取ル、五分ト書ケバ五分ヨリ取ラヌト
云フコトハ是ハ凡ソ常識ノ仕方デアラウト思ヒマス、元來此五分以上ト定メ
タル其時ノ事情ヲ申シマスルト、二十一年頃ノコトデゴザイマシタ、其時分
ノ我が經濟界ノ情況ト申シマスルモノハ誠ニ順境ニゴザイマシテ、外國貿易
ナドハ終始輸出ガ勝ツト云フコトデゴザイマシタ、是ハ松方侯ノ財政整理ノ
效果ガ大ニ現ハレタ時デゴザイマス、當時ハ五分以上トシテ置ケバ差支ナイ
ト云フ見込デアッタラウト思ヒマス、果シテ二十一年ヨリ二十七年ノ日清事件
ノ起リマスルマデハ、唯二十三年ニ一回暫時制限外發行ヲ致シマシタ、其外ハ
二十一年ヨリ二十七年ノ事件マデハ全ク發行イタシマセヌ、而シテ二十七八
年後ハ前陳ノ如ク財政經濟ニ大變動ヲ來タシテ終ニ五分ノ發行稅モ利カナク
ナリマシタ、故ニ七分ノ稅率ハ此時勢ニ適當シタ政策デアアルマイカト思ヒ
マス、モウ一ツ私ハ意見ヲ有ツテ居リマスノデ、此兌換券ニ付イテ右様ノ制限
外發行ニ對シテハ稅ヲ増シマスル、又一方ニハ保證準備内ノ發行稅デアリマ
ス、是ハ全廢シタイト思ヒマス、實ハ是ハ突飛ナヤウニ御感ジニナルカ知レマ
セヌガ、サウシテ成ルベク中央銀行ノ利子ヲ下ゲマシタナラバ延イテ一般ノ
利息モ下ガリマセウ、又幾分カ物價モ廉クナリハセヌカ、是ハ色々ドウシタラ
物價ガ廉クナリ利子ガ廉クナルデアラウカト研究ヲ致シマシタ末ニ是ハ思付
イタコトデアリマス、此發行稅ヲ課スルヤウニナリマシタコトハ、皆サンモ御
承知ノ通りニ三十二年デゴザイマシタ、當時日清戰役後ノ經營トシテ軍備擴
張其他行政膨脹ト云フヤウナコトデ歳出ガ益、増加シマシタ、サウシテ政府
モ財源ニ困ツテカラ此稅ヲ課スルコトニナッタデアラウト思ヒマスル、最前
ハ斯ウ云フ稅ハ無カッタノデス、十七年兌換制度制定ノ際ニハ斯ウ云フ稅ハ
無カッタノデス、ソレカラ十餘年後ノ三十二年ニナツテ課稅サレタ、當時、
其法案ニ對シマシテ、此貴族院ニ於キマシテハ委員諸君ガ種々御調査ヲナサ
レテ、何デモ原案ヨリ幾ラカ此稅率ヲ輕減サレテ漸ク成立シタト記憶シテ居
リマス、即チ此課稅ト云フコトハ當時ノ事情已ムヲ得ヌコト、思ハレマシ

タ、サリナガラ若シ此稅ヲ廢止シマシタナラバ銀行ハ斯ノ如キ非常ナ特典ヲ
政府カラ得テ居ツテ何モ負擔スルコトハ無イト云フコトニナリマス、國家ノ
恩惠ガ餘リ過グルト云フコトニナリマス、是ハドウシテモ相當ノ上納金ヲ納
メサセネバナリマセヌ、最初創立ノ際トハ違ヒマシテ段々資本ガ大クナリ、
積立金ガ多クナリマシテ基礎ガ鞏固ニナツテ來居リマス、ソレ故ニ相當ノ負擔
ヲスルト云フコトハ、是ハ列國何所デモ無イ所ハゴザイマセヌ、何カ名義ハ
色々違ヒマスクレドモ相當ノ上納金ハシテ居リマス、併シ一方ニ稅ヲ廢シテ
一方ニ又上納金ヲスルナラバ是ハ朝三暮四デ同ジ事デナイカト云フ議論ガ起
リマセウ、併ナガラ紙幣發行稅ヲ一分デモ二分デモ課シマスレバ、ソレダケ
ハ債務者ニ之ヲ負擔サセヤウト云フコトハ營業會社トシテハ是人情免レヌ
コト、思ヒマス、是ハ私ノ空想バカリデハゴザイマセヌ、事實ガ證明シテ居
リマス、三十二年ノ課稅前後ノ各、十年間、日本銀行ノ公定利率ヲ調査ヲ致
シマシテ、サウシテ平均利率ヲ以テ課稅前後ヲ比較イタシマスレバ、課稅後
ハ割引ハ一分二厘、貸付ハ一分五厘強カ弱カ、マダ數字ガアリマシタクレド
モ餘リ諱々シイカラ除キマス、何レ其邊ニ大差ハ無カラウト思ヒマス、ソレ
ダケノ増率ヲ日本銀行ハ致ス、ソレデ發行稅率ハ千分ノ十二半デアリマス、凡
ソ此増率ガ此稅率ト比例スル位ニナリマスル、デ斯ウ云フコトヲ改正イタシ
マシタナラバ、餘ホド經濟界ノ調節ヲ助ケルコトニナルデアラウト私ハ信ジ
マスル、先ヅ改正意見ハソレダケデアリマス、此兌換券ノ緊縮ヲ圖ッタナラバ、
餘ホド是ハ經濟界ニ大打撃ヲ受ケルデアラウト云フコトハ皆論ノアル所デ此
事ハ隨分ムヅカシイコトデアリマス、併ナガラ之ヲ急激ニスレバ或ハ一時市
場ノ困ルコトガアルカモ知レマセヌクレドモ、是ハ又仕様ニ依ツテ、サウ急激
デナクテモ宜シウゴザイマセウ、ソコラハ手心デヤッタラバドウデモ行キマセ
ウ、又通貨ヲ減ズルト云ツテモ、正貨ノ方ハ少シモ減ジナイ、正貨準備ナリ、正
貨其物ガ流通スルコトハ幾ラデモ流通シテ自然ニ任セテ行ク、ソコデ愈々通
貨ノ果シテ多イカ少イカト云フコトモ分カルヤウニナリマス、固ヨリ此兌換
券ヲ收縮スルト云フノハ其精神カラ致スコトデアリマスカラ、一時ハ成ルホ
ド市場ニ幾ラカ不景氣ヲ來タスヤウナコトハゴザイマセウクレドモ、是ハ暫
クスルト直ル、アトハ段々鞏固ナル基礎ノ上ニ發展ヲスルデアラウト考ヘ
マス、御承知ノ如ク英國ノ……成ルベク外國ノ事ハ申シマスマイト思ヒマス
クレドモ、是ハ好イ例デアラウト思ヒマスカラ……英國ノ兌換制度ハ制限外

ハアリマセス、ソレデ其制限ト云フモノハ千四百萬磅デアリマス、ソレカラ他ノ銀行ノ特權ガ移ッテ來タノヤラ何ヤラ合セテ四百五十萬磅バカリ別ニアルサウデアリマス、其額ト云フモノハ、千八百四十四年ニ彼ノ「ビール」條例ト云フモノデ定メタ額デゴザイマス、其時ノ額ハマダ多カッタ、其他澤山ノ銀行ガ特權ヲ有ッテ居リマシ、ソレヲ放棄シタカ、期限ガ切レテ消滅シタカ、何デモ「イングラント」銀行ニ今移ッテ居ルノデ、四百五十萬磅ト千四百萬磅、合セテ千八百五十萬磅ホド發行シテ居ル、ソレガ千八百四十四年、丁度六十八九年前ノコトデアリマス、其額デ是マデヤッテ來テ居ル、勿論ソレハ非難ハ澤山アリマス、今モ尙ホアル、其當時ハ餘ホドノ非難ガアッタ、又段々其制度施行ノ後、二三度バカリハ餘ホド困ッタコトガアリマシタ、法律ヲ停止シテサウシテ發行シタ、制限外ヲ發行シタト云フコトモアリマスルケレドモ、モウソレガ千八百六十六年ガ終ヒデゴザイマス、丁度日本ノ慶應二年クラキノ所ニ當リマス、其後ハ困ラナイ、困ラヌト云フモノハ、能ク人ハ小切手ガアル、ソレデ紙幣ガ少クテモ宜イト申シマスルケレドモ、ソレモ勿論アリマスケレドモ、矢張り正貨ガ澤山流通シテ居ル、紙幣ヨリ倍モ流通シテ居リマス、ソレハ良イカ悪ルイカ色々論モアリマセウケレドモ、固イコトハ固イニ違ヒナイ、日本ハ全ク無イ、英國ハ殆ド金貨ガ流通シテ居ルト云フヤウナ、是ハモウ善シ惡シハ直グ分カリマス、サウ云フ有様デゴザイマスカラ、正貨ニ制限ガ無イ以上ハ、サウ貨幣ニ困ルト云フ論ハ實ハ立タナイ、今改メテ申スマデモナク、此紙幣ト云フモノハ無クテモ宜イモノデアリマスルケレドモ、ソレハ流通ニ困ル、取引ニ困ルト云フ所カラ紙幣ハ行ハレテ居ル、ドウシテモ是ハ制限ガアッテ適度ニ之ヲ定メナクテハ餘ホド國ノ害ニナリマセウト思ヒマス、其信用取引ガ能ク行ハレテ居ルト申シマスルケレドモ、我が日本デモ信用取引ハ餘ホド能ク行ハレテ居ッタと思ヒマス、手形ヤ小切手ノヤウナモノハ甚ダ幼稚デハアリマセウケレドモ是モ行ハレテ居ル、信用ト云フコトハ昔カラ日本ノ敦厚ナル美風デ餘ホド行ハレテ居ッタ、實ハ口約束デモ、ナカナカ堅ク行ハレテ居ッタ、ソレガ段々西洋ノ文明ヤ何カ入ッテ來テ、世ガ澆季ニナリマシテ、人ガ輕薄ニモナリ、惡ル者モ出マスルケレドモ、尙ホ其美風ハ幾ラカ存シテ居ル、ソレデ信用取引ト云フモノハ實際ハ餘ホド行ハレテ居ラウト思ヒマス、就中、京阪地方、アレカラ西ニカケテ長崎アタリマデハ、半歳ノ期限ヲ以テ唯貸シテ置ク、懸賣ニシテ置クト云フコトモアル、一ト

月ノ懸ケニシテ置クト云フコトハ澤山アル、東京ニモアリマス、ソレデ實際ハ紙幣ヲ手許ニ置カナクテモ、通帳ナリ判取帳ナリ、アンナ物デ濟マシテ居ル、是ナドハ若シ信用取引ガ通貨ヲ節約スルト云フコトニナリマスレバ、矢張り日本モサウ云フコトハ格別西洋ト違ハヌヤウニ行ハレテ居ルト思ヒマス、ケレドモ私ハ小切手ヤ今ノ通帳ナドハ左ホド通貨ヲ節約スルトハ思ヒマセス、是ハ紙幣トハ違ッテ、ドウモサウ幾度モ循環シテ行クト云フヤウナモノデハナイ、切手ヤ手形、ソレカラ帳面ナドハ尙更嵩ハ澤山アリマスルケレドモ、通貨ノ用ヲ爲シテ居ルト云フノハ僅カナモノデアラウト思ヒマス、ソレハ何億万トカ其數ハ澤山アルデアリマセウケレドモ、ドウシテモ正貨ガ行ハレナケレバ紙幣バカリデハ流通ガ出來ナイ、併シ今ノ儘ニシテ置ケバ正貨ノ流通ト云フコトハ出來ヌコトニナル、ドウトカシナケレバナラス、ソレデ先刻申シマシタ通りニ紙幣ヲ減ジタラ正貨ハ幾ラカ必要ヲ増スト云フコトヲ見込ンデ居リマス、是ハ是非サウナケレバナラスノデゴザイマス、唯通貨ガ少クシテ困ル困ルト言ッテ此儘ニシテ置ケバ大ナル害毒ヲ貽スデアラウト思ヒマス、全體日本ハ信用ガ餘リ過ギルト思ヒマス、信用ノ過ギルヤウナコトハ決シテ西洋デハセスコト、思ヒマス、ソレガ……今日日本ノ經濟界ノ信用ト云フモノガ害ヲ貽シテ居リハセスカト思フ位デゴザイマス、先ヅ此第一項ノコトハ其邊ニ止メテ置キマシテ、第二項ハ是ハモウ分ッタ話デアリマス、是ハ説明ヲ要スルマデナイコト、思ヒマス、是ハ唯一項ニ關係シテ出テ來タヤウナコトデ、唯此正貨ガ貿易ノ不均衡ト、ソレト外國債ノ利拂、是ダケニ皆出テ行クヤウニ見エルガ、實ハ又外國カラ這入ッテ來ルモノト内國ヨリ出ルモノト貿易以外國際勘定ガゴザイマス、其數ハ能ク分リマセス、分リマセヌケレドモ這入ッテ來ルモノガ餘ホド多イヤウデゴザイマス、ソレデ必シモ此二項ニ書イテアル通り全部海外ヘ出ル譯デハゴザイマセス、是ハモウ申サヌデモ御承知ノ通りデゴザイマス、唯第一項カラ關係シテ餘儀ナク是ガ出テ來タト云フヤウナ譯デアリマス、ソレカラ此三項ノ工業ノコトデゴザイマス、是ニ少シ理由ガゴザイマス、ゴザイマスルケレドモモウ段々御飽キニナッテ居リマセウカラ多クハ申シマセヌガ、我國ノ土地ト云フモノハ格別大キクゴザイマセス、サウシテ人口ガ繁殖スル爲ニ自國ノ天產物デハ衣食共ニ足ラヌ所カラ、外國ノ供給ヲ仰グコトモ少カラヌ高ヲ仰イデ居ルノデゴザイマス、ソコデ是ハ工業、工業ヲ起サネバ……外ニモ產業ハ幾ラモゴザイマシテ、必シ

モ工業ニ限ッタコトデハゴザイマセヌ、現ニ農業ト云フモノハ比較的進歩シテ居リマスカラ、殊更ニ茲ニハ産業ト書カナカッタノデゴザイマス、工業ト云フモノヲ大ニ盛大ニ發展セネバイクマイト思ヒマスカラ、茲ニハ工業ノミヲ……デ是ガ又需要供給モ限リ無イコトデゴザイマシテ、唯其土地ノ天產物ハ其土地限リノモノデゴザイマシテ、就中我國ノ如キ狹イ國ハ從ッテ天產物ガ少イニ相違ゴザイマセヌ、ソコデ此工業ト云フモノヲ大ニ起サナケレバナラヌノデゴザイマス、是ハ前田君モ亦此點ニ付イテ御考ガ有ルヤウデゴザイマスカラ、何レ御名論ガ出マセウカラ私ハ申シマセヌガ、唯其中ニ勞力ハ餘リアリテ、サウシテ工業ハ起ラヌト云フコトヲ書イテ置キマシタガ、之ニ付イテハ此物價ノ騰貴ト云フコトヲ一ツ申上ゲヌト分ラヌト思ヒマス、是ハ成ルホド粗製濫造デ外國向ニ評判モ惡ルシ、買手モ無イノデゴザイマセウガ、畢竟スルニ物價ノ騰貴ガ斯クセシメル、粗製濫造ニ……其證據ニハ內國需要品ハ段々進歩ヲシテ行キマス、內國需要品ノ共進會ヤ博覽會ヤ其他三越ノ吳服店ナドヘ行ッテ見テモ分リマスガ、アノ通りニ內國需要品ガ進歩シテ居ル所ヲ見レバ、外國需要品モ進歩シナイト云フコトハナカラウト思ヒマス、畢竟スルニ外國需要品ハ高イ物ハ賣レナイ、內國需要品ハ賣レル、外國需要品ハ競争ガアルカラ高イモノハ賣レナイノデゴザイマス、內國需要品ニ至ッテハ外國ノ競争ト云フモノガ無イノデアリマスカラ少シ高クテモ構ハヌノデアリマスカラ、其通り精巧ノ物ヲ造リ出シテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ外國需要品ニ至テハ外國ノ製品ト競争ヲセネバナリマセヌ、ドウシテモ是ハ成ルダケ工費ヲ省クコトヲ圖ラヌケレバ競争ヲスルコトガ出來マセヌ、ソレガ爲ニ外國需要品ハ發展セヌノデアラウト思ヒマス、元來風俗ガ異ナルユエ内外ノ需要ノ有様ヲ見レバ外國需要品ノ競争ノ有ル物ハ努メテ廉クシナケレバナリマセヌ、其競争ノ無イモノ即チ內國ダケデ需要スルモノハ少シ價が高クテモ賣レルト云フ狀態デゴザイマス、就中、絹布、帶地ト云フヤウナ物ハ餘ホド立派ナ物ヲ造ルニ相違ゴザイマセヌ、併ナガラ其需要者ト云フモノハ、範圍ガ定マッテ居リマシテ、僅ニ千人カ万人カ上等ノ需要者ハ多クナイ故ニ、年々新意匠トカ、新柄トカ何トカ彼トカ言ウテ賣付ケヤウトスル、是ハ風俗ガ益、浮華ニ流レ奢修ニナリ、チヨット見タ所ハ誠ニ立派ナヤウデゴザイマスガ、サウ云フ品ハ外國カラ來テ買フ者ハゴザイマセヌ、此邊ハ餘ホド考ヘナケレバナリマセヌ、近ゴロ新聞ナドガ趣味ノ有ル表ヲ出シテ居ルノデゴザイマ

ス、此工業ノ中デモ衣服ノ用ヲ爲ス織物ハ餘ホド注意ヲシテヤラナケレバナリマセヌ、衣服ト云フモノハ御承知ノ通り自國ノ需要ノミニハ限リマセヌ、自國ダケノ需要ヲ充タシテ尙ホ外國ヘモ出スモノデゴザイマス、サウシテ世界ハ廣イモノデ其需要モ限リノ無イコトデゴザイマスカラ、是ヨリ工業ノ限リナク大キクナルノハドノ位デアアルカ分リマセヌ、何所ノ國ノ工業ニシテモ機業ヲ主トシテ居ル有様デ、日本ニ於キマシテハ勿論此織物ト云フモノガ首位ヲ占メテ居リマスガ、如何ニセム僅ニ二億五六千万圓ニ止マッテ居リマス、五千万ノ人口ヲ有ッテ居ル日本ニシテ僅ニ二億五六千万圓トスレバ一人ニ付イテ僅ニ四五圓ニ當ルノデゴザイマスガ、其中カラシテ幾分カハ外國ヘモ出ルノデゴザイマス、斯様ナ有様デハ到底、國ガ興ル譯ハゴザイマセヌ、此二億五千万ヲ二十億ニモ増シ、尙ホモット増スヤウニセネバ迎モ日本ノ發達ハ期セラレヌト思ヒマス、先ヅ大概ソレダケノコトデ、モウ其他四項ノ概數ノコトハ此銀行預金ト云フモノヲ見マシテモ十八億圓……郵便貯金ト云フモノガ二億圓バカリモゴザイマスガ、併ナガラ其金ガ銀行ニ遊金トシテ遊ンデ居ル譯デハゴザイマセヌ、大抵ハ之ヲ貸出シテゴザイマスケレドモ、又年々ニ幾分カ増スモノデゴザイマス、ソレデ國債トカ公債トカ云ヘバ必ズ喜ンデ之ニ應ズルデアラウト思ヒマス、ソレニ付イテモ色々例證モゴザイマスガ、餘リ長クナリマスカラ此邊デ御參考ニ供シテ置キマス、甚ダ詰マラヌコトヲ長ク申シマシテ恐縮デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八、海外貿易振興ニ關スル建議案、前田正名君發議、會議、建議案ノ朗讀ハ省略シテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ建議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

海外貿易振興ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治四十五年三月八日

發議者

前田 正名

贊成者

伯爵清閑寺 經房

外百三十五名

貴族院議長公爵德川家達殿

海外貿易振興ニ關スル建議

日露戰役以來國家ノ債務漸ク多キヲ加ヘ國民ノ負擔亦其ノ重キニ苦シムノ狀ナキニ非ス我カ財政ノ基礎ヲ鞏ウシ經濟ノ調和ヲ圖ルハ目下朝野ノ齊ク焦心措ク能ハサル所ナリ加之戰後ノ經營未タ全ク成ラス國防充實ノ急務一日モ忽諸ニ付スヘカラサルモノアリ此ノ際ニ當リ刻下ノ否運ヲ濟フノ策ハ我カ海外貿易ノ振興ヲ計ルヨリ急ナルハナシ

顧ミレハ現今我カ輸出貿易ノ増進遲々タルモノアリ是レ一ニハ粗製濫造ノ結果我カ商品ノ信用漸ク地ニ墜チ外國ノ模造品隆々トシテ其ノ勢力ヲ増大シ我カ販路ヲ杜絶スルニ因ル若今ニ於テ矯正振作ノ途ヲ講セスムハ我カ輸出貿易品ハ遂ニ全然歐米市場ヨリ驅逐セラルルノ悲境ニ陷ラムモ知ルヘカラス豈寒心セサルヘケムヤ故ニ政府ハ銳意邁進海外貿易ノ振興ヲ畫策セラレムコトヲ望ム

右建議ス

理由書

理由ハ本文ニ明ナルヲ以テ之ヲ略ス

〔前田正名君演壇ニ登ル〕

○前田正名君 殘念ナガラ十分申上ゲル時間ガ無イヤウニゴザイマスカラ、一項ニ付キマシテ二三分ヅ、説明ヲシタイト考ヘマス、此案ハ多數ノ御賛成ヲ得マシテ建議スルヤウニナリマシタガ、モウ此上モ廣ク國民ニ知ラセマシテ、此實行ヲ早メタイト考ヘル次第デス、チョット本問題ニ入りマス前ニ開港以來ノコトヲ一二言申上ゲタイト思ヒマス、極ク短ク御話ヲシマスカラ暫ク御清聴ヲ煩ハスノデゴザイマス、是ハ開港以來明治十年マデ、不肖ハ海外ニ居リマシタカラ、明治初年ヨリ十年マデノ間ニ、貿易上ノ調査ヲシタノヲ其當時政府ニ建議ヲシタノデゴザイマス、其後、貿易並ニ産業ノコトニ付イテ時々調査攻究シタコトハ到底時間ヲ要シマスカラ略シマスガ、此貿易上ニ付イテ、チョット申上ゲテ置キタイノハ極ク短ク申上ゲマス、明治十四五年頃マデハ多ク品ヲ買ハレテ、賣ル力ハ無イト言ッテ宜シイノデアリマス、又買フ物モ買ハセラレルノデアッタ故ニ、賣ルコトモ出來ズ、買フコトモ出來ナイト云フ

有様デアリマシタ、漸クニシテ買フ力ニナリ、又賣ル力ニナッタデアリマス、是ガ貿易ノ開港以來今日マデノ進歩デアリマス、ケレドモ今ダニ明治十年ノ頃建議シマシタ目的ヲ達シテ居ラナイノデアリマス、是等ノコトニ付キマシテハ十分ノ御話ヲシタイト思ヒマスケレドモ時間ノ許サヌ爲ニ遺憾ナガラ御話ガ出來ナイノデ、付キマシテ茲ニ差迫ツタル強敵トモ言フベキ貿易上ニ二三ノ品ガアル、其品ハ即チ此人造絹絲デアリマス、是デアリマス、(實物ヲ示ス)、一昨年歐洲ヲ視察シマシタトキハ左ホド心配モシマセナカッタガ、昨年行キマシタトキニハ非常ナル心配ヲシ始メマシタノハ即チ是デアリマス、一昨年ノハ火ニ恐ロシイトカ、或ハ彈力ガ無イトカ、或ハ水ニ洗濯ガ出來ナイト云フモノデアリマシタガ、是ハ洗濯モ出來ル、又火ノ心配ガアッテモ普通、紙ノ燃ユル如キ、絲ノ燃ユル位ノ如キモノデアッテ、之ヲ心配スルノデアリマス、併シ不思議ニハ此人造絹絲ニ付イテ我ガ國民ガ格別心配ヲシナイノハ誠ニ驚イテ居ル次第デアリマス、故ニドウゾ廣ク此事ヲ御知ラセ下サルヤウニ、又是等ノコトニ付イテハ十分ニ御熟考ニナルヤウニ祈ッテ居ル次第デアリマス、此人造絹絲ハマダ恐ラク日本人ハ見ナイノデアリマス、極ク最新ノ物デアリマス、此特長ハ何「マイルス」デモ節ナク蠶ノ蟲ヨリ出來タモノ、如ク節ハ無ク、幾「マイルス」デモ長ク節ナク出來マスカラ、茲ニ御覽ニ入レルヤウナ立派ナ織物ガ出來ルノデアリマス、第二ニ日本ノ如ク絹ヲ洗張ルトカ、洗フトカシナイ、十ノ八九ハ洗ハナイノデアリマス、汚レタ汚レキリ用キルモノガアルノデアリマス、故ニ格別洗ヒハ利カズトモ濟ム品物デアリマス、ドウデセウカ、是ガ段々此需要ガ廣クナッテ來ルコトハ確カデアリマス、我ガ生絲ガ歐羅巴亞米利加ニ毎年賣レ方ガ減ジテ來マシタトキニハ、我ガ國家ノ經濟ハ立ッテ行キマセウカ、之ヲサッパリ氣ニシナイニ至ッテハ實ニ驚イテ居ル、人曰ク日本ノ絲ニ及バヌ、無論ナコト天成ノ絲ト人造トノ區別、無論及バナイ、併ナガラ生絲ノ及バナイ所ハドウカト云フト、第一廉ク付ク、茲ニ皆直段ガ付イテ居リマスガ驚ク程廉イノデアリマス、殆ド綿ノ如クデアリマス、第二ハ何「マイルス」デモ同一ノ節ノ無イモノガ出來マスカラ、彼等ノ用キル所ノ織物ニハ蠶ノ蟲ノ及バヌ所ノモノガ出來テ來ル、是ホド日本ノ強敵ハ無イト考ヘマス、イツモ開港以來我ガ國民ハ、ナニ大事ナイト云フ、大事ナイト云フ時ガ大事ナノデアッテ、大事ニナッテカラハ最早及バナイノデアアル、此歴史ヲ申シマス、綿ハドウデアリマセウ、悉ク

英吉利ハ綿ハ出來マセヌカラ、東洋即チ日本ヨリモ……私ナドハ現ニソレヲ見テ居ルノデアリマス、日本ノ綿ヲ買ッテ行ッテソレヲ「マンチエスタ」デ織ッテ亞細亞ニモ織物ヲ賣ッタノデ、遂ニ棉畑ハ我が帝國ニ一段モ見ルコトガ出來ナクナッタノデアリマス、皆其通りデアッテ茶ノ如キ誠ニ安全ナル茶デアリマシタガ、是モ漸々斯ウ云フ敵ヲ防イダ次第デアッテ、明治十七年頃ハ綿ノ如ク討死ノ如クナラナクテハナラヌノニ、漸ク人ノ力ヲ以テ助カッタト云フヤウナコトヲ考ヘマス、萬ガ一、我が桑畑ガ、一時茶ノ畑ガ毎日、茶ノ樹ヲ抜イテ薪ニシタ如クニ或ハナルカモ知レナイト云フコトハ最早覺悟ヲシナクテハナラナイ、此問題ハ貿易ト名ハ小サウゴザイマスクレドモ、國家ニ取ッテハ大々關係ヲ有シテ居ルノデゴザイマス、故ニ何カ危ゲ無イトキニ其用意ヲシナクテハ、最早危クナッテ來タトキニハ到底之ヲ防グト云フコトハ出來ナイノデゴザイマスカラ、ドウゾ綿ノ如キ其他ノ我が物産ノ悉ク今日衰退ニナリマシタノハ全ク油斷ノ結果デアリマスカラ、是ホド差迫ッテ心配ノモノハ無イノデアリマス、又其次ニハ此「ラミー」ノ如キ、是ハ日本ノ天成ノ物ガ多ウゴザイマスガ、昨年漸ク社會中ノ學者ガドウシテモ出來ナイノヲ出來サシタノガ「デブスケ」ト云フ人ノ發明デ、是ハ非常ナ關係ヲ有ッテ居ル、是モ日本ノ牛血ヲ非常ニ吸ッテ來ルヤウニナリマス、其次ニハ銅像ガ「ミニユート」ノ中ニ寫真ニナッテ出來ル、或ハ最モ日本ニ適當スル所ノ賊除ケ、是ハ奇代ナ發明デアリマス、掛時計ノヤウナ、チツボカイ道具デアリマス、之ヲ例ヘバ一分トカ八分トカ室ニ入ッテ置イテ、賊ガ額ヲ外ストカ或ハ机ヲチヨット動カスト、コ、マデ聞エルノデアリマス、或人曰クソレハ家ノ構造ニ依ルデアラウト言ヒマスガ、ソレカモ知レナイガ、併ナガラ此機械ハ山林ノ盜伐ヲスルトキニ、山林……山ニ仕掛ケテ居ッテモ盜伐ガ知レルト云フカラ家ノ構造ニ依ルノデハナイ、最モ日本ノ賊ノ多イ所ニ適當ナモノデアアル、ソレ等ノコトハ大變ナモノデアリマス、陸續サウ云フ日本ノ生血ヲ吸フモノガ這入ッテ來マスルガ、此貿易上ニ付イテハ貿易ニ從事シテ居ル人ダケデナイ、五千万ノ人悉ク今日、滿洲デ我が兵ガ戰フト云フヨリ、マーツ氣ヲ入レナクテハナラヌノニ、サッパリ意トシナイ、不思議千万ト考ヘマス、時間ガアリマセヌカラ御覽ニ入レルコトハ出來マセヌガ、是ハ火ニ御燻ベニナッテモ、是マデノ絲ト違ッテ決シテ燃エハ致シマセヌ、是等ノ織物ノ如キ皆此人造デアアル、是等ノハ私ハ此機械場ヲ見タ爲ニ記念ノ椅子ヲ造ッテ居ル、

此頃送ッテ來マシタガスウ云フ強イモノヲ試ミレト云フコトダト思ヒマス、其他是等ノ物（實物ヲ示ス）ハ皆是レ丁度日本風ノ物デゴザイマセウカ、全ク日本デアリマス、皆是レ日本ノ物ヲ取ッテ彼レ日本トシテ賣ッテ居ル、日本ヨリ最早之ヲ輸出スルコトハ出來ナイヤウナ有様、皆日本デアリマス、飯碗モアッチデ出來ルカモ知レマセヌ、此紙モズット日本ニ來ル、是モ日本ニ這入ッテ來ル、一カラ十、悉ク這入ッテ來ル、是ハ樟腦、龍腦、人造デス、楠ハ要ラナイノデアリマス、御承知ノ通り、……併ナガラ今皆知ッテ居ルノデアリマスガ、今楠ヨリ採ル樟腦ホドニ廉ク付カナイカラ、ヂットシテ居リマスクレドモ、是モ矢張り生絲ノ如キ、當局者ハマア大丈夫デアアル大丈夫デアアルト言ヒマセウ、併ナガラ是モ人造絹絲ノ如ク、モウ楠デナクテ引合フヤウニナッテ來マセウ、是ハ香水デス（實物ヲ示ス）、今日日本ニ來ル香水ト云フモノハ薔薇ノ花「バイオレット」ノ花ヨリ採ルモノデハナイ、悉ク人造デアリマス、氣候モ要ラズ花モ要ラズ、斯ウ云フ人造デアリマス、故ニ日本國民ガ吞氣ニ此頃ノ流行言葉ノ樂觀的、或ハ悲觀的、天氣ノ好イトキニハ天氣ガ好イト云ッテ腕ヲ組ンデ居ル、雨ガ降ルト仕方ガナイト云フ……樂觀ノトキニ油斷ヲシテハイカス、悲觀ノトキニハ悲觀ニ打勝タナクテハナラヌ、時々ソレハ我が國家、此國ヲ離レテ遠方ヨリ見マスルト實ニ危險ト言フヨリ外ニ言ハレナイ、ソレヲ能ク知ラナイ爲ニ、樂觀デアアル、心配スベキモノデナイト言フ、何ヲ以テ樂觀トスルカ、何ヲ以テ悲觀トスルカ、樂觀ニ負ケ悲觀ニ負ケテ居ル今日デアアル、ナカノ二十七八年ノ日本ノ戰爭ドコロデハナイ、非常ナル戰爭ヲシテ居ルノデアアル、即チ明治十年マデ歐羅巴ニ在ッテ此貿易ノ事ヲ聊カ研究シタノハ即チ是デアリマス、故ニ此十年ニ言ッタコトヲマダ達スルコトモ出來ナイカラ、皆サンニ斯ウ云フ訴ヲスルコトデアリマス、餘リ長クナリマスクレドモ今暫ク御聽キ下サリタイコトハ、ドウゾ澤山、參考品モ有リマスクレドモ、皆此所ニ持ッテ來マセナカッタガ、是ダケハチヨット御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス、私ノ話ハ決シテ前田正名ノ意見デナイ、四十年間始終事物ト相談ヲシ、調査攻究ノ結果、不肖蓄音機トナリ寫真機トナッテ、ソレガ御耳ニ訴ヘルノデゴザイマスカラ、事物其物ガ言フコトヲ御取次ヲスルニ止マル次第デアアル、故ニ之ヲドウスルカト申シマスルト、第一ニ差迫ッタノハ此人造絹絲ヲ防ガナクテハナラヌ、何ヲ以テ防ガカト云フト、確カニ防グコトガ出來ル、唯悲觀ヲシテ腕ヲ組ンデ居ルモノデナイ、其悲觀ニ

打勝ッテ行カナクテハナラヌ今日ノ日本デアル、何ヲ以テ打勝ッテ行クカト云フト、丁度例ヘテ見ルト敵ノ武器ヲ取ッテ敵ヲ討ツト云フコトデアル、ソレハ何デアルカト云フト、此發明家ヨリ直接ニ親シク聞ク所ニ依リマスルト云フト、是ハ東洋ノ製造場デヤラナクテハナラヌ、東洋ノ製造場ト云フノハドコカ、日本デアル、是ハ不肖等ハ始終、東洋ノ製造地ハ我が日本帝國ト斯ウ思ッテ居ル、彼等曰ク此原料ハ恐ラク瑞典ノ松ノ木デセウ、即チ「ボルブ」デアリマス、是ガ即チ松ノ木デアリマス、是ガ「ボルブ」デアラウト云フノデアリマス、棉ノヤウニナスノデアリマス、其棉即チ人造、是ガ最新ノ發明デアラウト思ヒマス、確カナコトハ知リマセヌ、大變ナ祕密デアリマスカラ、若シ是ガ「ボルブ」トシタナラバ瑞典邊ノ松ノ木デアル、其松ノ木ト云フモノハ諾威、瑞典、獨逸邊ニ御覽ノ通り此クラキナ松ヲ育テルニハ五十年カ、リマス、我が日向ノ如キ秋田ノ松ハ十年ニシテ殆ド是レ以上斯ウナリマス、又松ダケデナイ、日本ヨリ此草木ニ富シテ居ル所ハ無イカラ松、檜、榎松、蝦夷松、檜、様々ナ原料ヲ有ッテ居ル、同ジ「ファミリー」兄弟ノ木ヲ澤山有ッテ居ル、モウ是デ勝ッテ居ル、發明ニハ負ケマシタ、發明ハ此敵デ討タナクテハナラヌ、第二ニハ空氣ガ格別乾燥シナイノガ大變我々ガ忌ム所ダ、クレドモ是ニハ最適シテ居ルサウデアリマス、第三ハ水ヲ要スル、是ハ世界中、日本ノ如キ水ノ良イ所ハナイ、第四ハ此工女ノ指先、男女共ニ指先ノ利器ト云フモノハ世界ニ日本ヨリ無イ、其四ツノ特長ヲ有ッテ居リマスル爲ニ必ズ是ハ日本國ノ物産ニナッテ來ナクテハナラヌデアリマス、是ハドウスルカト云ヘバ、即チ日本デアリマスカラ、今聽手ニ向ッテ始終紹介ヲシテ居ル次第デアリマス、紹介ヲシテ其聽ク人、探ルベキ人ガ探ッテ早く之ニ著手シテ手ヲ著ケナクテハ遂ニ其織物業者モ之ヲ買フコトニナッテ來マセウ、スルト日本ノ生絲ノ直段ト是トハ十分ノ一ト斯ウナッテ來ル、又粗製濫造ノ長所ナル我が日本國民ガ、又我が生産ノ生絲ヲ何分カヅ、年々減ジタトキニハ其桑畑ハドウ云フ有様ニナリマセウカ、覺悟セネバナラヌ、業ニ已ニ此新發明ニ及バナイ昨年一昨年マデ見タ所恐ロシクナイト云フ生絲人造絹絲サヘモ大變今日ハ入ッテ來ル、羽織ノ紐デアルトカ、流行ノ「リボン」皆這入ッテ來ル、況ヤ斯ウ云フ此稍、絹製ニ劣ラナイ物ト云フヤウナモノ出來ルトキハ……マア是ハ防ギマセウ、萬々這入ラナイトシテモ、我が今一二、産ヲ爭フ第一ニ日本ノ命脈ヲ繫イデ居ル所ノ生絲ガ歐米ノ市場ニ在ッテ、毎年此相

場ヲ落サレルカ或ハ減ゼラル、トナッタトキハ我が經濟界ハドウナリマス、一昨年ハ伊太利ノ總理大臣ニ始メテ會ッタクハ、實ニ親シイモノデアッテ、私ハ其總理大臣ハ始メテ……他ノ人モ知ッテ居ルガ……前田君ドウダ日本ノ生絲ト伊太利ノ生絲ト佛蘭西ト……支那ハ何デモナイダラウカラ……之ヲ之ヲ合同シテ伊太利ノ「マーケット」ノ市場ノ相場ヲ進メテ行カウデヤナイカト總理大臣ガ親シク話スヤウナ次第、併ナガラ昨年ノ如キ斯ウ云フ新發明ガ來マシタトキハ一モ二モナク此相場ヲ狂ハセラルト云フコトハ自然ニ分ッテ居ル、伊太利ノ總理大臣ガ言ハレル伊太利、佛蘭西ノ此絲ノ「マーケット」ヲ狂ハスドコロデハナイ、之ヲ以テ行クコトニナリマシテハ實ニ心配シナクチヤナラヌ、其心配ニ負ケチヤイケマセヌカラ心配シテ之ニ打勝タナケレバナヌノデアリマス、先刻機業モ申上ゲマシタ、諸君モ御承知デアリマスカ、明治初年前カラ開港以來、伊太利ノ種紙屋、佛蘭西ノ種紙屋ガ澤山日本ニ來マシテ、ソレヲ伊太利ヤ佛蘭西ニ持ッテ行ッタノガ抑、初マリデゴザイマセウガ、既ニ日本ノ敵ヲ以テ彼ノ業ヲ以テ日本ヲ殺シテ居ルト言ハナケレバナラヌ、故ニ綿ダケデナク蠶蠶ノ爲ニ日本ヨリモ立派ナ絲ヲ拵ヘルヤウニナル、種々斯ウ云フ器物デモ悉ク日本ノ物ヲ以テ日本ヲ打ツト云フヤウニナッテ居リマスカラ、其軌轍ヲ履マナイヤウニ今日ハ朝野舉ッテシナクチヤラヌ問題デヤラウト考ヘル、一問題ヲ一分二分見マシタガ大變長クナリマシタ、茲ニ一二ヲ以テ便利上茲ニ此演說ヲ……大切ナ事デアリマスカラ、チヨット趣意ダケヲ書イテ來マシタカラ若シ協フコトナレバ之ヲ演說トシテ速記ニ書イタモノトシテ貰ヒマシテ、速記録ニ依ッテ御覽クダサル方ガ便利デヤナイカト思ヒマス、併ナガラ是等ノ事ハサウ行クモノカ行カヌモノカ存ジマセヌカラ、チヨット茲ニ餘リ長クナリマスカラ是ハ略スル積リデアリマス、唯要ハソコニ……

〔議長、前田正名君ニ注意ス〕

ソレデヤ議長ノ御許シヲ得マシタカラ速記録ニ願フコトニ致シマス、第一ハ歐洲ニ於テ日本新古美術展覽會ヲ開催ノコト、第二ハ重要生産品貿易ニ關スル統一機關ヲ東京ニ設置スルコト、第三ハ海外ニ注文品引受所ヲ設置スルコト、第四ハ從來ノ各府縣共進會並ニ博覽會等ノ改善ヲ計ルコト、是等ハ大ニ議論ガアリマス、博覽會、共進會ノ如キ一時ノ御祭り騒ギ……諸縣ノ出品ヲ飾ッテ騒グト云フヤウナ時デナイノデアリマスカ、是ハ大變ナ議論ガゴザイ

マスルガ措キマス、以上直接ニ海外貿易ノ振興ヲ爲スベキ二三ノ方法ヲ掲グルノミ、此次ニ第一ニ外人ト企業ノ共同經營ヲ獎勵スルコト、第二ニ將來開通スベキ海外ノ交通路ニ伴フベキ相當ノ設備ヲ爲スコト、第三ニ國民風俗ノ改善、第四ニ國ノ特色ヲ失フコト、此特色ヲ今失ヒツ、ゴザリマスルガ、此特色ヲ失フトキハ國ハ既ニ危イト言フテ憚ラズ申上ゲル次第ゴザイマス、チヨット今日デモ申上ゲマスノハ我が美術工藝品ハ世界ニ無比ノモノデアリマス、是ハ誰ガ御師匠サンデアアルカト云フト、印度、支那、朝鮮デゴザリマス、ドウデアリマス、カ、印度、支那、朝鮮ノ有様ト申スモノハ……皆我が日本帝國國民ガ我が特長ト爲シテ仕舞ツテ其御師匠サンノ國ハ今日ハドウナツテ居リマセウ、即チ我が日本ノ工藝其他ノ物ハ外國カラ吸取ラレ吸取ラレツ、アツテ實ニ是ヨリ恐ロシイモノハナイ、何ゾ工藝品ニ限ラム、其他言フニ言ハレナイ特長ヲ有シテ居ルモノヲ失ヒツ、アル今日デアリマスカラ、實ニ眼前ノ事ニノミ……將來此國家ヲドウスルト云フコトハ實ニ何トモ言ハレナイ感ヲ起スノデアリマス、是モ實地イクサヲ見ルト實ニ感ジマスケレドモ我國ヲ見ルニハ我國デハナイ、海外ヨリ我國ヲ見ナケレバ到底見レルモノデナイト考ヘマス、丁度議長ノ御注意ニナツテ御許シ下サイマシタカラ大略茲ニ掲ゲテゴザリマスカラ、ドウゾ速記録ヲ以テ御覽ヲ願ヒマス、チヨット茲ニ面白イモノヲ申上ゲマス、(針金製ノ小器具ヲ示ス)、是ハ倫敦デ買ツテ來マシタ、是ハ日本ニ極ク適當ナ品デゴザリマス、日本ノ國力増進ト申シマス上ニ……民間ニシテモ働イタダケ食ツテ仕舞フト云フコトハ日本國民ノ誠ニ弊デアリマス、又昨今ノ失フ所ハ非常ナモノデゴザイマス、是ハ倫敦デチヨット買ヒマシタガ、石鹼ヲ以テ……石鹼ガ此位ニ小サクナリマシタラ其石鹼ヲ之ニ入レテ柱ノ釘ヘ掛ケテ置ク、彼是澤山ニナツタ時ハ女中ガ洗濯ヲヤル、實ニ外國モ國力増進ヲヤルニハ第一ハ節儉、徒勞ナ事ハシナイ、丁度石鹼ト節儉ト言葉ガ合ッテル、チヨット面白イカラ、チヨット申上ゲル、私一體フザケルコトハ嫌ヒダガ丁度節儉デゴザイマス、ドウゾ是ハ家庭ニ最モ注意シテ國家ヲ作ラナクテハナラナイ責任ヲ有シテ居ル、此御一新ノ際ト言ツテモ宜シイ、併シ失フ所多ク得ル所少ク外國人モ慨歎シテ居ル次第デアリマスカラ、ドウゾ日本ノ特長ヲ失ハヌヤウニ願ヒタイ、折角及バズナガラ此實業ダケノ方面ニ向ツテ盡力スル次第デゴザリマス

〔參照〕

海外貿易振興ノ方法ヲ根本的ニ解説セントセハ其意義極メテ廣汎ニシテ其問題亦甚タ多岐ニ涉リ或ハ法制教育ノ改善或ハ幣制交通ノ革新等論スヘキモノニシテ足ラス今務メテ之レヲ直接關係アル二三ノ要點ニ止メ其方案ヲ説カンカ

第一 歐洲ニ於テ日本新古美術展覽會開催ノコト

一 歐洲ノ一都府ヲ撰ミ毎年一回我新古品展覽會ヲ開催シ世界ニ比類ナキ我國ノ歴史及美術等ノ發達淵源及我國文明ノ真髓ヲ紹介シ併セテ彼我専門家ノ接近ヲ計リ智識ノ交換ヲ爲スコト

一 前項ノ展覽會ニハ開催地ニ存在スル我古美術品ヲ蒐集出品セシメ我國ヨリハ新作品ヲ精撰シテ之レニ出陳スルコト

一 我國斯業ノ専門家ヲ派シ出品物ノ鑑定及説明ヲ爲サシメ歷史上ヨリ製品ノ由緒緣起並ニ其製品ト歴史、製品ニ對スル製作者ノ真意及製品ニ存スル寓意、風俗ト製品ノ變遷進步我國國民ノ禮儀作法ト製品トノ關係ヲ諒解セシメ且是等ノ蒐集品ニ關スル美術及風俗史ヲ各開催地ノ國語ニ編纂シテ普ク其國人ニ我文明ノ卓越セルヲ知ラシムルコト

一 以上ノ目的ヲ達スヘキ爲メ一ノ協會ヲ組織スルコト

第二 重要生産品貿易ニ關スル統一機關ヲ東京ニ設置スルコト

一 内外需要物品ノ粗製濫造ヲ嚴督シ商業道德ヲ進歩セシムル爲メ一ノ機關ヲ組織シ海外ニ於ケル我商品ノ信用ヲ恢復シ貿易ノ發展ヲ計ルヘキコト

一 統一機關ノ目的ハ純良正確ナル物品ヲ海外ニ紹介シ注文ヲ受ケテ責任的販賣ヲ爲スヘキコト

但其組織ニ付テハ尙大ニ研究調査ヲ爲スノ要アリ

第三 海外ニ注文品引受所ヲ設置スルコト

一 我正確ナル物品ヲ市場ニ紹介シ且責任ヲ以テ注文ニ應スルカ爲メ海外ニ注文引受所ヲ開設スルノ必要アリ而カモ之レト共ニ内ニハ信用スヘキ製造家ノ團體ヲ有スルニアラサレハ目的ヲ達シ難キコト

一 外國貿易ハ輸出入ノ一方ノミニテ成立スヘキモノニアラス故ニ我國ノ産業發達ノ上ニ於テ必要ノ器械有益ナル發明品等アラハ之レヲ敏速ニ購入シ若シクハ我當業者ニ紹介シ以テ彼我ノ便益ヲ計ルヘキコト

第四 從來ノ各府縣共進會並ニ博覽會等ノ改善ヲ計ルコト

一我國ノ經濟及物質的狀態ヨリスレハ外國品ノ輸入ヲ防止シ輸出ノ増加ヲ計リ以テ國際貿易ノ關係ヲ進ムルコト急ナルハナシ故ニ刻下第一ノ要務ハ輸出獎勵ノ方法ヲ考究スルニアルコト固ヨリ論ヲ俟タス

一然ルニ從來內國ニ開催セル各種ノ博覽會、共進會等ヲ觀ルニ單ニ一時の其地方ヲ繁榮セシムルニ止リ貿易及地方產業獎勵ノ主旨ヨリシテハ常ニ反對ノ結果ヲ見ルヲ遺憾トス又海外ニ開催セラレタル博覽會ニ贊同スルニ際シテモ我出品者ハ國產紹介ノ手段ニ出テスシテ却テ粗製濫造ト商業上ノ德義心ナキコトヲ廣告セルノ觀アリ是レ全ク製造人ニ對スル取締リナク又商業道德ニ重キヲ置カサリシ結果ナルヲ以テ博覽會組織ノ改善ハ一日モ忽諸ニ付スヘカラサルコト

一以上ノ弊害ヲ矯正シ博覽會ヲシテ名實相伴ハシメントスルニハ商業上ノ德義心ヲ進ムヘキ適切ノ機關ヲ備フルヲ急務トス

一而シテ從來ノ如キ時世ニ伴ハサル博覽會共進會ヲ改善シ製造家ヲ督勵シテ内外商業ノ發展ヲ期セントセハ中央ニ全國輸出品評會、地方ニ一府縣限リノ品評會ヲ開催シ以テ海外貿易振興ノ練習ヲ爲スコト最も必要ノ施設ナリト信ス

以上ハ直接ニ海外貿易ノ振興ヲ爲スヘキ二三ノ方法ヲ舉ケタルノミ今更ニ二三直間接ニ關係ヲ有スル問題ヲ說カンカ

第一 外人ト企業ノ共同經營ヲ獎勵スルコト

東洋ニ於テ我國カ生産上有利ノ地位ニアルハ言ヲ俟タス而シテ資本ノ缺乏ハ外資輸入ノ急ヲ說ク者ヲ生スルニ至レリ然リト雖モ一國ノ生産ハ其國民カ主働的地位ニアルコトヲ要シ受働的地位ニアルヘカラサルハ國民經濟上忘ルヘカラサルノコトナリトス是レ企業ニ共同經營ノ必要アル所以ナリ

第二 將來開通スヘキ海外ノ交通路ニ伴フヘキ相當ノ設備ヲ爲スコト

交通機關ノ發達ハ一日ト其影響ヲ大ニシツ、アリ近クバナマ運河ノ開通ヲ見ンカ我國ハ世界ノ通路ニ於ケル五大停車場ヲ有スルニ至ルヘシ此等ノ地ニハ豫メ官民合力シテ旅客ノ運搬ニ付キ又ハ遊覽案内等ニ付キ十分ノ設備ヲナスノ急務アルニアラスヤ

第三 國民風俗ノ改善

先ツ第一ニ我國ノ外人ニ輕蔑セラル、ハ國民ニ公德心ノ缺如セルト衣服々

制ノ定マラサル世界の禮節ノ備ハラサル等風俗ノ改善極メテ急要ナルヲ信ス此一事ニシテ備ハラサランカ何ヲ以テ彼我國民ノ交際ヲ進メ利害ヲ共通セシムルヲ得ンヤ當路者深ク此ノ點ニ注意セサルヘカラス

第四 國ノ特色ヲ失フコト

日本ノ特色ハ氣候ノ溫和、風光ノ絕佳、國民ノ優美、物產ノ豐富ナルニ存ス然ルニ今ヤ漸ク其特色ヲ滅殺シツ、アリ國民ハ日ニ輕薄ニ流レ日本魂ノ光彩已ニ暗ク風景ノ地廢レテ設備亦整ハス又世界ニ卓絶スル工藝、織物、陶磁器、漆器、金屬器等ハ今ヤ粗製濫造ニ流レ歐米ニ於ケル模造却テ技術ノ發達ヲ示ス是レ實ニ寒心スヘキニアラスヤ印度支那朝鮮ハ日本工藝ノ祖ナリ然ルニ彼レニ倣ヘル我國ハ採テ以テ自己ノ特產トナシ其師祖タル彼等ハ今日ノ衰境ニ陷レリ般鑑遠カラス須ラク考慮ヲ要ス凡ソ一國其特長ヲ失フハ國家ノ不幸是レヨリ大ナルハナシ先進諸國ノ此點ニ意ヲ用ユルノ深キ蓋世人想像ノ外ニアリ海外貿易振興ニ關シ留意スヘキ重要ノ點此ニ存ス

第五 遊覽地ノ設備

全國各地ノ好位置ニ在ル避暑避寒ノ地竝ニ景勝ノ地ヲ撰定シ其土地ノ事業トシテ百般ノ設備ヲナサシメ外人ノ遊覽地ト爲スコト瑞西、伊太利ノ如クシ此天然ノ富ヲ利用セサルヘカラス

第六 海運事業

日本ノ位置已ニ船體ノ如シ優勢ノ海上權ヲ有セサレハ其位置ヲ保ツ能ハサルハ必然ノ理勢ナリトス又日本ハ位置トシテ其收ムヘキ利益ハ悉ク海外ニアリ而カモ一國ノ製產ニハ限リアリ優勢ノ海運業ニヨリ他國ノ物產ヲ以テ已レノ業ト爲サ、ルヘカラス海運業ノ發展ハ貿易ト離ルヘカラサル關係アリ實ニ一國ノ消長ニ關ス思ハサルヘケンヤ

第七 他國民トノ交際

平和ノ關係ハ國民間ノ交際ニ俟ツモノ多シ政府ト政府トノ交際固ヨリ親密ナルヲ要スルモ文明ノ進歩ト共ニ更ラニ國民間ノ交際ヲ發達セシメサルヘカラス國民交際ノ敦厚ニ依リ相互ノ利益ヲ増進セシムルノ結果ハ世界ノ平和ヲ確立スルノ基礎タルコトヲ忘ルヘカラス而カモ政府間ノ國際關係ノミヲ以テ其目的ヲ果サントスルハ蓋シ難事ナリ思ハサルヘケンヤ

以上ノ諸項ハ本問題ニ直間接ノ關係アル所感ヲ述ヘタルニ過キス固ヨリ之ヲ以テ盡クセリト爲スニ非ス政府當局者深ク本問題ヲ講究シ適當ノ措置ヲ

ランコトヲ望ム

○男爵高木兼寛君 發議者ニ質問イタシタウゴザイマスガ、宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 高木男爵

○男爵高木兼寛君 今日、御建議ニナリマシタ趣旨ヲ承リマシテ感服ノ外ゴザイマセヌガ、最モ心配ヲ致シマスル箇條ハ第一ニ御示シニナッタ人造絹絲ノ事デアリマス、今ヤ我國ハ北海道ノ端ヨリ南ノ端臺灣ニ至ルマデ土地ヲ起シマシテ桑ヲ植付ケ天然ノ生絲ヲ製造セムコトニ専ラ努メテ居ル次第デアリマス、然ルニ一方ニ於テハ斯ノ如キ價ノ廉イモノデ代用ヲ爲スコトガ出來ルモノガ盛ンニ出來ルト云フコトヲ承ツテ見テハ、一日モ安ジテ居ルコトハ出來ヌヤウナ次第デアリマス、然ルニ之ニ打勝ツ方法ガ必ズヤーツアラウト云フ御意見デアリマス、トコロデ成ルホド氣候其他御述べノ通り得ル所ハ彼レニ優ル所ヲ我ガ有シテ居ルコトガ我レニアルニ致セ、大祕密デアルト云フ御話デアル、其法ガ分ラズシテ如何ニ心配シテ此物ヲ我國デ拵ヘルト云フコトハ頗ル難儀デアラウト思フ、付イテハ此分ハ學者ガ研究イタシマスレバ容易ニ發見スルコトガ出來ルモノカ、若シ容易ニ發見ガ出來ナイト云フコトニ致シマスレバ、之ヲ拵ヘルノ法ハ得ル途モ亦アルモノデアリマセウカ、果シテ得ルコトガ出來ルモノデアレバ誠ニ仕合せノ至リト云フノ外ナイヤウニ思ヒマス、故ニ前田君ノ御考デハ生絲ヲ製造スル方法、謂ハユル絹絲ヲ製造スル法ヲ得ルコトモ亦出來ルモノト云フ御意見ガ確カニアルノデアリマセウカ、若シ又是ハ學者ニ頼ンデ晝夜兼行デ之ヲ拵ヘル途ヲ新タニ發見シナケレバナラスト云フコトデアリマスレバ、又其方面ニ向ッテモ専ラ力ヲ集中スルト云フ必要ガアラウト思ヒマス、尙ホ一二伺ヒタイコトガアラウト思ヒマスケレドモ先ヅ之ニ對スル御答辯ヲ煩ハシタイ

○前田正名君 先刻申上グル如ク悲觀シテ腕ヲ組ンデ居ル私デナイ、悲觀ニ打勝ツト云フ精神デアル爲ニ續ケテ歐羅巴ニ行キマシタガ、先刻申上グル如ク是ハ歸ッテ後オ前ノ椅子ニ拵ヘヨト云ツテ贈ッテ呉レル如クニ親シク申シマシタカラ是ハ約束ヲシテ來マシタ、此專賣ヲ特ニ日本ニ向ッテハ廉ク賣ラナクテハナラス、如何トナレバ我ガ發明ヲ廣ク世界ニ擴ゲタイ爲ニ自分ガ行ッテ便宜ナヤウニスル故ニ絲ガ澤山出來ル國デアルカラ絲ノ出來ナイ所ヨリモ、ウント廉クシテ上ゲル、自ラ行ッテモ……日本ニハ行キタイカラ自分ガ

行ッテヤッテ宜シイ、斯ウ云フ約束ガ出來テ居リマス、故ニ此節ハ西伯利カラ朝鮮ヲ經マシテ遂ニ此福岡ニ九州中ノ實業家ヲ集メテ置キマシテ丁度十二月十八日デアリマシタ、尙ホ關西、北陸ノ實業家ヲ京都ニ二十一日ニ集メマシテ、サウシテ京都ノ方デ言ッテ來マシタ、ソレカラ尙ホ名古屋、靜岡ニ行ッテ言ッテ來マシタガ、今ダニドウモ……段々承ツテ見ルト心配ハ無イト云フヤウナ鹽梅デアッテ少シモ之ニ其感ジテ起シマセヌ、故ニ先刻申上グル通り、又種紙ノ如キ又生絲ノ如キ茶ノ如キ、我ガ物産ノ陶磁器、漆器、紙、其他ノ如キ矢張り其敵ガ攻メテ來ルマデハ抛ッテ置クノカト云フコトヲ先刻申上ゲタガ、少シ御答ヘガ長クナリマシタケレドモ、確カニ之ヲ廉ク我ガ土地ニ來テ貰ッテ專賣ヲ買ッテ我レ主トナッテ彼レガ製造場デナク我レガ製造トナッテ之ヲ造ルコトガ出來ルト云フ御答ヘヲ申上ゲマス

○男爵高木兼寛君 今一ツ伺ヒタイコトハ、本員共モ兩度ホド外國マデ參リマシテ、日本ヨリ賣出ス所ノ品物ニ付イテ外國人ノ評スル所ヲ承ツタ機會モ度々アルノデアリマス、ソレニ付イテ最モ遺憾ナル點ハ、我ガ國民ガ製造シテ出ス所ノ品物が詰リ一定セヌ品物デアッテ、或ハ種類モアリマセウケレドモ、甲乙丙丁各、其實ヲ異ニスルガ如キコトデアッテ多數ノ物ヲ一度ニ注文デモ致シテ之ヲ買入レ外國ヘ販賣スルト云フヤウナコトガ極メテ困難デアル、ソレ故ニ寧ロ日本人ニ依頼シテ品物ヲ拵ヘテ貰ッテ商賣ヲスルヨリモ自ラ拵ヘタ方カ廉上ガリデアリ、且ツ揃ッタ品物が出來ルト云フヤウナコトヲ承ツタ場合ガ幾ラモアルノデアリマス、付イテハ我國ヨリ出ス所ノ品物ヲ一定シテ外國市場ニ送り立派ナ商品トナスコト云フコトニ付イテハ御意見カラデアルカト思ヒマス、題目ダケヲ御讀ミニナッタ中ニソレ等ノ機關ヲ設ケナケレバナラスト云フ御話ガアリマシタガ、其機關ハ如何ナルモノヲ拵ヘテ帝國ノ生産品ヲ優良ノ物ニシテ外國市場ニ賣出スコトガ實際出來ルト云フ御見込ガゴザイマセウカ、實際唯言ウテ見マスルト、我國ニ於テ今日マデ此方面ノ進歩ガ斯ノ如ク遅々タル所以ガアルダラウト思フ、ナゼ同士討ナドヲスルト云フコトガ起ルカ、必ズ其弊害ノ歸スル所ガアルニ違ヒナイノデアル、付イテハ其原因即チ今日マデ斯ノ如キコトノ出來ナイ所以ガアラウト思ヒマスカラシテ、之ニ付イテ如何ナル御考ガアルカ、今日マデ出來ナイ所以ヲ御研究ニナッテ分ッテ居ルコトデアリマスレバ、ソレヲ如何ニシテ除クカ、除イテ而シテ後ニ我ガ生産品ヲ立派ニ世界ニ於ケル所ノ市場品トナスコトヲ圖ルコトガ出來ル

カト云フヤウナコトニ付イテノ御意見ヲ承リタイモノデアルト思フ

○前田正名君 誠ニ仕合セナル御質問デアリマス、ソレハ丁度茲ニ此重要生産品貿易ニ關スル統一機關ヲ東京ニ設置スルコト、云フ所ヨリ御答ヘテ致シタウゴザイマス、不肖ナガラ明治十年マデ此貿易ノコトニ、海外ニ從事シマシテ、幸ニシテ明治十年ニ歸リマシテ、大博覽會ノ事務長ヲ命ゼラレテ、是ガ日本ノ見世開キデアルト進ンデ行ッタ次第デアリマス、其時ハ日本國民ヲバ全ク「エスキモー」ノ如ク支那ノ屬國ノ如ク見ラレテ居ル時デゴザイマシタカラ、芝居マデモサセテ日本ノ國風ヲ知ラシタノデアリマス、餘計ナガラ一言申上ゲマス、其當時ヨリ此日本制度ノ事ニ付キマシテ夜晝ニ繼キ在職中ハ調査攻究シタ積リデアリマス、詰リ此團結ト云フコトノ必要ヲ感ジマシタ爲ニ御承知モアラセラレマスルガ、農事會、蠶絲會、茶業會、其他十二團體ヲ拵ヘマシタ、其絲ノコトニ付イテノ御質問ニ丁度適合スルデヤラウト考ヘマスコトガ我が百二十萬人ノ茶業者デアッタ、是ガ柳ノ葉ヲ入レル、様々ノコトヲシテ遂ニ「ユーナイテット」ステート」ノ政府カラ日本茶ヲ禁ゼラレタコトガ明治十七年デアリマス、其時政府ヨリ二十萬ノ保護ヲ願ッテ出來マシタケレドモ、不肖ハ其當時農商務次官デアリマシテ、思フ所アッテ退イテ、其時ニ二十萬圓ノ金ヲ取上ゲラレタカラ宜シイ、百二十萬ノ茶業者ヨリ茶半斤出セ、出セバ六十萬斤出來ル、之ヲ五十錢トスレバ三十萬圓ノ金ガ出來ルカラ、毎年三十萬圓ノ金ヲ以テ此茶ノ討死スルノヲ活カシテヤラウト云フノガ茶業ノ會デアリマス、是ガ九州ニ茶業會ガアリ、關東ニ茶業會ガアリ、東北ニ茶業會ガアルト云フ如キ三ツノ團體ヲ拵ヘタ爲ニ此規約ト云フモノ、規約ト云フモノハ法律ヨリ重ウゴザイマス、此規約ヲ以テトウ「亞米利加ニ日本國旗ヲ以テ市場ニ向ッテ戦ヒヲ開キマシタ其結果、ドウデゴザイマセウ、日本國民ハ滿洲ノ戦ヒハ號外ヲ貰ッテ喜ブケレドモ、此茶業ノ戰爭ハ號外ヲ出ス人モ無シ喜ブ人モ無イ、ソレハ何チヤラウカト云フト先刻申上ゲル如ク横濱神戸ノ城……城廓、商戦上ノ城廓トモ云フベキ居留地ニ茶デアル、絲デアル、悉ク居留地……横濱ノ居留地ノ專有デアル、全ク城廓デアリマシタガ、茶業者ガ諷ッテ御買上ヲ願ヒマス、御買上ヲ願ヒマスト云ッテ即チ買ハレテ居ッタ、其我が日本ノ國旗ヲ樹テ、戰爭場裡即チ亞米利加ニ向ッテ出シマシタ結果、是ハ長クナリマスカラ申上ゲマセウガ、遂ニ今日ノ茶業ハ我が静岡ノ茶業トナッタ、即チ家康ノ城廓ノ如クニナッテ外國人ガ買ヒマセウ、買ヒ

マスカラ即チ賣ルト云フ機關ニナッタ、神戸横濱ニ居ル城廓ハ即チ隊ニ師團トモ云フベキ隊ハ悉ク退却シテ、即チ居留地ノ今日ノ有様ハナンボデモ先ヅ買フコトニナッタデアリマス、是ハ即チ日本商權ノ恢復デアッテ、國民ハ非常ニ之ヲ喜バナクチャナラヌデアリマスケレドモ、先刻申上ゲル通り明治十年ニ今日言フコトヲ言ッテ建議シテアルケレドモ、半バ達シマシタ、ケレドモマダ達シナイカラ此節ハ此團體ヲマ少シ堅固……マ少シ堅固ニシテ又其茶ノ如キ、絲ノ如キ團體ヨリ成ッテ居ル……成ラナイモノヲ纏メテ一ノ茲ニ大機關ヲ作ラナクチャナラス、其機關ヲ作ルニハ地方ノ團體ガ是ニ皆寄ッテ來ナクチャナラヌト云フ、是ガ即チ第二ノ御質問ノ問題ニ當ルデアリマス、尙ホ私ノハ枝葉ニ入ッテ仕舞ヒマスカラ要領ヲ得ナイヤウナ御話ニナルカモ知レナイガ、兎モ角モ統一ヲ作ラナクチャナラス、ト云フモノハ現ニ今、里昂ノ羽二重、第二ニツク即チ大產物デアリマスガ、此羽二重ニ從事シテ居ルノハ高島ナリ、堀越商店、三井物產會社、原善、横濱ノ中澤、斯ウ云フ五軒列ベテ居ッテ矢張り是ガ味方討ヲシテ居ルヤウナ鹽梅デアリマス、之ヲ統一スルニハ、ドウシテモ茲ニ東京ニ統一スルモノヲ作ラナケレバ到底此戰場ニ出テ此戦ヒヲ全ウスルト云フコトハ出來ナイ、唯個々ニ視察トカ何トカ云ウテ始終、調査トカ、視察トカ、研究デヤトカ……視察、研究、調査ト云フ時デハナイ、言論ノ時デハナイ、實行スル時デアアル、其實行ヨリ割出シテ行ク所ノ調査攻究デナクチャナラヌ、丁度斥候ニ於ケル……兵ナクシテ斥候ハ無駄デアアル、斥候ノ效ハ兵ガ有ッテコソ斥候ノ效ヲ爲ス、始終報告調査グラキヲシテ居ッテハ到底今日ノ危急ノ場合ヲ救フ譯ニハ行カヌ、餘計ナガラチヨット申上ゲマス、故ニ丁度適例ヲ申上ゲマスト昔……昔ノ通りデナクチャナラヌト云ウチ宜シイ、又今日歐羅巴ノ文明ノ如クナラナクチャナラヌト云ッテ宜シイ、ソレハ何デアアルカト云フト、尾張ノ陶器……瀬戸物、尾張侯ハ是ガ即チ尾張ノ參勤交代ノ費用ノ金トシテ此陶器ノ制……組織ト云フモノハ到底今日ノ及ブ所デナイ、薩摩ノ參勤交代ノ費用ハ砂糖デアル、土佐ハ何デアアルカト云フト紙、德島ハ何カト云ヘバ藍ヲ以テヤル、其組織ト云フモノハ非常ナモノデアアル、今日ノ……

〔議長、前田正名君ニ注意ス〕

ハイ、御注意デ……先ヅ是デ御分リデゴザイマセウ
○男爵高木兼寛君 マダ伺ヒタイコトガ澤山アリマスケレドモ、就中要用ト

思フモノニ付イテ、モウ一コト伺ヒタイ、本員ニ於キマシテモ、國家ノ長所ヲ失ヒツ、アルト云フ考ヲ持シテ居ルノデアリマス、御演說中ニ矢張り其意ヲ御漏ラシニナツタヤヴデ誠ニ遺憾ノコトデアアル、大體ニ於テ一口ニ申セバ世界ノ大勢ハ斯ク斯クデアアルカラ我國モ必ズソレニ隨伴シナケレバナラヌカノ如キコトヲ承ルノデアリマス、是ハ甚ダ本員等ノ遺憾ニ思フテ居ル次第デアリマス、故ニ唯閣下ニ伺フ所ハ、如何ナル特長ヲ失ヒツ、アリマスカ、殊ニ御話ノ時ニ力ヲ入レテ御話デアリマシタガ、ドウゾ我が國家ノ長所ヲ是レ是レノ點ニ於テ失ヒツ、アルト云フコトヲ極ク簡單ニ御答辯ヲ煩ハシマス

○前田正名君 第一ハ此議場デ申スコトヲ憚リマス、第二ハ此道德デアリマス、擡ンデタモノデアリマス、昔ハ證文……金百兩、或ハ金一兩、右借用仕候事實正也萬ガ一返濟イタサズ候節ハ人中ニテ御笑ヒ下サルベク候ト云フコトデアリマシタ、是ガ今日ノ歐羅巴ハ如何デアリマス、其特長ト云フモノヲ悉ク失ツテ居リマス、第二ハ……第三ハ……、第一ハ申シマセヌ、第二ハ今申シマシタ、第三ハ成ルホド此織物、陶磁器、漆器、金屬ナリ、紙、敷物、雜貨等、技巧……奇麗ニハナツテ來マシタケレドモ、ソレヲ外國人ニ賣リマヌルニハ退步デアアル、唯奇麗デアリマスカラ、子供ハ喜ビマスガ、今日日本ノ特色ヲ失ツテ居ルト云フコトハ即チ世界中デ以テ見ル所デアリマス、故ニ此特長ヲ失フト云フコトハ、モウ先刻チヨット申上ゲテ置キマシタガ、一番、國ノ是ヨリ大事ナコトハ無い、之ヲ救フハ今ニアル、遲レテハイカナイト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス、是デ御満足デアリマスカ

○議長(公爵德川家達君) 採決イタシマス

〔前田正名君「ソレデハ是デ……」ト述フ〕

○議長(公爵德川家達君) 本建議案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

鐵道又ハ船舶ト露國ノ鐵道又ハ船舶トノ貨物ノ聯絡運送ニ關スル法律案特別委員

公爵德川 慶久君 伯爵寺島 誠一郎君 子爵青山 幸宜君

子爵新莊 直陳君 子爵入江 爲守君 男爵田 健治郎君
谷 森 眞男君 仲小路 廉君 廣瀬 滿正君

陸軍作業會計法中改正法律案特別委員

伯爵松平 直之君 子爵樋口 誠康君 男爵沖原 光孚君

男爵山名 義路君 男爵山内 長人君 男爵外松 孫太郎君

男爵北大路 實信君 森田 庄兵衛君 木本 源吉君

產牛馬組合法改正法律案特別委員

伯爵清閑寺 經房君 子爵伏原 宣足君 子爵伊集院 兼知君

和 田 彦次郎君 男爵竹腰 正己君 男爵青山 元君

男爵坪井 九八郎君 藤田 四郎君 土居 通博君

水道條例中改正法律案特別委員

侯爵花山院 親家君 伯爵清棲 家教君 子爵野宮 定毅君

男爵石黑 忠惠君 男爵尚 順君 關 清英君

古 莊 嘉門君 岩村 兼善君 鎌田 勝太郎君

關稅定率法輸入稅表中改正法律案特別委員

伯爵大原 重朝君 子爵松平 乘承君 子爵稻垣 太祥君

男爵小早川 四郎君 男爵藤大路 親春君 男爵黑田 長和君

平 山 靖彦君 田島 竹之助君 小野 光景君

水利組合法中改正法律案特別委員

伯爵萬里小路通房君 子爵京極 高備君 子爵野村 益三君

小野田 元熙君 小牧 昌業君 男爵毛利 五郎君

三 宅 秀君 何 禮之君 兒玉 淳一郎君

○議長(公爵德川家達君) 次ノ議事日程ハ決定次第、彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是デ散會イタシマス

午後零時三十一分散會